

基本計画書

基本計画									
事項	区分	記入欄						備考	
計画の区分		学部の学科の設置							
フリガナ設置者		ガッコウホウジン フクハラガクエン 学校法人 福原学園							
フリガナ大学の名称		キョウシュウジ ヨシダガク 九州女子大学 (Kyushu Women's University)							
大学本部の位置		福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番1号							
大学の目的		<p>本学は、教育基本法に則り学校教育法の定めるところにより広く知識を授けると共に、深く専門の学術を教授研究し、応用的能力展開と人格の感性に努め、我が国の文化の高揚発達に貢献する高い知性と豊かな情操を有する女性の育成を目的とする。</p>							
新設学部等の目的		<p>学是「自律処行」の精神に基づき、児童・幼児教育学科は、子どもの教育及び発達支援に関する専門性と広い視野を有し、社会に貢献できる、豊かな人間性と高い倫理性を備えた人材を育成することを目的とする。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	人間科学部 [Faculty of Human Sciences] 児童・幼児教育学科 [Department of Early childhood and Elementary Education] 計	4年	100人	—年次人	400人	学士(教育学) 【Bachelor of Education】	令和5年4月1年次	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番1号	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>人間科学部 心理・文化学科 (90) (令和4年4月届出) 人間発達学科 (廃止) 人間発達学専攻 (△130) 人間基礎学専攻 (△60) (3年次編入学定員) (△40) ※令和5年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和7年4月学生募集停止)</p> <p>家政学部 生活デザイン学科 (60) (令和4年4月届出) 人間生活学科 (廃止) (△40) ※令和5年4月学生募集停止</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	人間科学部 児童・幼児教育学科	講義 98 科目	演習 130 科目	実験・実習 12 科目	計 240 科目	124 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	人間科学部 児童・幼児教育学科	8人 (8)	6人 (6)	4人 (4)	0人 (0)	18人 (18)	0人 (0)	77人 (46)
		心理・文化学科	6 (6)	3 (3)	2 (1)	0 (0)	11 (10)	0 (0)	69 (45)
		家政学部 生活デザイン学科	5 (5)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	7 (7)	1 (1)	77 (41)
		計	19 (19)	9 (9)	8 (7)	0 (0)	36 (35)	1 (1)	— (—)
	既設	家政学部 栄養学科	7 (7)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	5 (5)	65 (47)
		共通教育センター	1 (1)	1 (1)	1 (0)	0 (0)	3 (2)	0 (0)	— (—)
計		8 (8)	4 (4)	4 (3)	0 (0)	16 (15)	5 (5)	— (—)	
合計		27 (27)	13 (13)	12 (10)	0 (0)	52 (50)	6 (6)	— (—)	

既設大学等の状況	大学の名称	九州女子短期大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	子ども健康学科	年	人	年次人	人	短期大学士(教育学)	倍	平成23年度	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番1号
		2	150	—	300		0.90		
	大学の名称	九州共立大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	経済学部 経済・経営学科	年	人	年次人	人	学士(経済学)	1.14 1.26	平成21年度	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番8号
	地域創造学科	4	350	—	1,350		0.74	平成31年度	
	スポーツ学部 スポーツ学科	4	80	—	280	学士(経済学)	1.14 1.14	平成19年度	
		4	250	—	1,000	学士(スポーツ学)			令和元年度入学定員減(△100人) 令和3年度入学定員増(50人) 令和3年度入学定員減(△20人)
	大学の名称	九州共立大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
経済・経営学研究科 経済・経営学専攻	年	人	年次人	人	修士(経済学)	2.60 2.60	令和4年度	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番8号	
スポーツ研究科 スポーツ学専攻	2	5	—	10		1.10 1.10	平成30年度		
	2	5	—	10	修士(スポーツ学)			令和4年4月開設	
附属施設の概要	該当なし								

教育課程等の概要																
(人間科学部児童・幼児教育学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合共通科目	教養教育科目	文化・芸術領域 ことばと日本文化	1・2前・後		2		○								兼3	オムニバス
		ことばと異文化	1・2前・後		2		○			1					兼2	オムニバス
		情報文化論	1・2前・後		2		○								兼1	
		スポーツの文化	1・2前・後		2		○								兼1	
	歴史・社会領域	歴史と国際情勢	1・2前・後		2		○								兼1	
	現代国家と法（日本国憲法）	1・2前・後		2		○								兼1		
	暮らしと経済	1・2前・後		2		○								兼1		
	人権・同和教育	1・2前・後		2		○								兼1		
	人間・環境領域	人間と哲学	1・2前・後		2		○								兼1	
	生命と地球	1・2前・後		2		○								兼1		
	心の科学	1・2前・後		2		○								兼1		
	共生社会を生きる	1・2前・後		2		○								兼1		
	言語・異文化理解科目	日本語表現法Ⅰ	1前・後	1				○							兼3	
	日本語表現法Ⅱ	2前・後	1					○							兼3	
	伝わる文章力	2前・後		1				○							兼1	
英語Ⅰ	1前	1					○							兼3		
英語Ⅱ	1後	1					○							兼3		
英語コミュニケーションⅠ	2前	1					○		1					兼2		
英語コミュニケーションⅡ	2後	1					○		1					兼2		
TOEIC入門	1前・後		1				○		1	1						
フランス語Ⅰ	1・2前		1				○							兼1		
フランス語Ⅱ	1・2後		1				○							兼1		
中国語Ⅰ	1・2前		1				○							兼1		
中国語Ⅱ	1・2後		1				○							兼1		
韓国語Ⅰ	1・2前		1				○							兼1		
韓国語Ⅱ	1・2後		1				○							兼1		
イングリッシュワークショップ	1・2前・後		1				○		1	1				兼1	共同	
海外研修	1・2・3・4前・後		2					○	1							
情報教育科目	情報処理演習Ⅰ	1前	1					○						兼3		
情報処理演習Ⅱ	1後	1						○						兼3		
情報処理演習Ⅲ	2前		1					○						兼2		
情報処理演習Ⅳ	2後		1					○						兼2		
情報科学概論	1前		2				○							兼1		
データサイエンス	1後		2				○							兼1		
アルゴリズムとプログラミング	2前		2				○							兼1		
ICT活用法	2後		2				○							兼1		
情報処理技術	3前		2				○							兼1		
科教健 目育康	スポーツ	1前・後		1						1				兼2		
健康の科学	1前・後		2				○							兼1		
キャリア教育科目	キャリア領域	キャリア基礎演習Ⅰ	1通年	1				○		3		2			集中	
		キャリア基礎演習Ⅱ	2通年	1				○		1	2	2			集中	
		キャリア基礎演習Ⅲ	3通年	1					○		2	3			集中	
		キャリアデザインⅠ	1前	1					○			1			兼2	
	キャリアデザインⅡ	3前		1				○						兼1		
	キャリアデザインⅢ	3後		1				○						兼1		
	インターンシップⅠ	1・2・3・4前・後		2					○	1				兼1	共同	
	インターンシップⅡ	1・2・3・4前・後		2					○	1				兼1	共同	
	キャリア発展領域	スキルアップ講座B	2前		1				○		1					
		スキルアップ講座C	2後		1				○		1					
スキルアップ講座F		2後		1				○		2	2	2			オムニバス	
スキルアップ講座G		3前		1				○		3	2	2			共同	
スキルアップ講座H		3後		1				○		3	2	2			共同	

科目区分	授業科目の名称			配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合共通科目	キャリア教育科目 キャリア発展領域	スキルアップ講座 I	4通		1				○			8	6	3			オムニバス・共同 (一部) オムニバス・共同 (一部) 兼1		
		スキルアップ講座 J	1後	1					○			8	6	3					
		スキルアップ講座 O	1後		1				○										
		スキルアップ講座 R	3・4前		1				○				1						
		スキルアップ講座 S	3・4後		1				○				1						
小計 (57科目)			—	13	65	0	—			8	6	4	0	0	兼34				
専門教育科目	学部共通科目	人間科学概論	1前	2				○			3	1				兼1	オムニバス		
		心理学概論	1前		2			○								兼1			
		発達心理学	1前		2			○								兼1			
		学習・言語心理学	1後		2			○								兼1			
		コミュニケーション概論	2後		2			○								兼1			
		社会調査法	2前		2			○								兼1			
		教育・学校心理学	2後		2			○								兼1			
	学科共通科目	初等教育領域																	
		特別支援教育の理解 (障害児支援教育)	1前		2				○			1		1				オムニバス・共同 (一部)	
		教職概論	1前		2				○			1							
		教育原論	1後		2				○			1							
		教育心理学	1後		2				○					1			兼1		
		教育制度論	3前		2				○						1				
		特別支援教育論	3前		2				○			1							
		教育方法・技術論 (情報通信技術の活用を含む。)	2前		2				○									兼1	
		教育課程論 (初等)	2前		2				○									兼1	
		初等教育実習事前事後指導	3・4通		1				○			3	2	1				共同	
		初等教育実習 I	3後		4						○	2	1	1				共同	
		初等教育実習 II	3後		2						○	1	1					共同	
		初等教育実習 III	4前		2						○	1	1					共同	
		教職実践演習 (初等)	4後		2					○		2	2	1				オムニバス・共同 (一部)	
		特別支援教育領域																	
		障害者教育総論 I	1前		2					○			2	1					オムニバス・共同 (一部)
		障害者教育総論 II	1後		2					○			2	1					オムニバス・共同 (一部)
		病弱教育	2後		2					○								兼1	
		知的障害者の心理・生理・病理	2前		2					○			1						
		知的障害者教育	2後		2					○			1						
肢体不自由者の心理・生理・病理	2前		2					○				1							
肢体不自由者教育	2後		2					○				1							
肢体不自由者指導法	3前		2					○				1							
発達障害教育総論	3前		2					○			1								
病弱者の心理・生理・病理	2前		2					○								兼1			
障害者の病理・保健	3前		2					○			1								
知的障害者指導法	3前		2					○			1								
視覚障害教育総論	3後		2					○								兼1			
聴覚障害教育総論	3後		2					○								兼1			
重複障害教育総論	3後		2					○				1							
特別支援学校教育実習事前事後指導	4通		1					○			2	1					共同		
特別支援学校教育実習	4通		2							○	2	1					共同		
コース科目	児童教育コース	国語科教育概論 (書写を含む。)	1後		2				○					1					
		算数科教育概論	1後		2				○			1							
		生活科教育概論	2後		2					○								兼1	
		社会科教育概論	1後		2					○				1					
		図画工作	1後		2					○		1							
		理科教育概論	2前		2					○		1							
		家庭科教育概論	2後		2					○								兼1	
		体育	2後		2					○				1					
器楽基礎	2前		2					○				1					兼8		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	幼児教育・保育コース コース科目	子どもの健康と安全	2後	2			○								兼1
		幼児と健康	2前	2			○			1					
		幼児と人間関係	1後	2			○				1				
		幼児と環境	2前	2			○					1			
		幼児と言葉	1後	2			○					1			
		幼児と表現	2前	2			○			1	1				
	ゼミナール科目	ゼミナールⅠ	2前	1				○		4		1			
		ゼミナールⅡ	2後	1				○		1	2	2			
		ゼミナールⅢ	3前	1				○		2	3				
		ゼミナールⅣ	3後	1				○		4		1			
	キャリア発展ゼミナール	4通	2				○		8	6	3			集中	
小計 (113科目)		—	8	214	0	—			8	6	4	0	0	兼29	
自由選択科目	図書館司書課程科目	図書館概論	1前	2			○								兼1
		生涯学習概論	1後	2			○								兼1
		情報資源組織論	2前	2			○								兼1
		情報資源組織演習Ⅰ	2後	1				○							兼1
		情報資源組織演習Ⅱ	3前	1				○							兼1
		情報サービス論	2後	2			○								兼1
		情報サービス演習Ⅰ	3前	1				○							兼1
		情報サービス演習Ⅱ	3後	1				○							兼1
		児童サービス論	3前	2			○								兼1
		図書館情報技術論	2前	2			○								兼1
		図書館情報資源概論	1後	2			○								兼1
		図書館サービス概論	2前	2			○								兼1
		図書館制度・経営論	3後	2			○								兼1
		図書館サービス特論・図書館情報資源特論	4後	2			○								兼1
	図書及び図書館史・図書館基礎特論	4後	2			○								兼1	
	学校図書館課程科目	学校経営と学校図書館	3前		2			○							兼1
		学校図書館メディアの構成	3後		2			○							兼1
		情報メディアの活用	4前		2			○							兼1
		学習指導と学校図書館	4後		2			○							兼1
		読書と豊かな人間性	4後		2			○							兼1
	K I C I P 科目	公務員試験概論	1前・後		1				○						兼1
		数的処理Ⅰ	1後		1				○						兼1
		社会科学Ⅰ	1後		1				○						兼1
		文章理解	2後		1				○						兼1
		数的処理Ⅱ	2前		1				○						兼1
		数的処理Ⅲ	2後		1				○						兼1
		社会科学Ⅱ	2前		1				○						兼1
人文科学		2後		1				○						兼1	
自然科学		2前		1				○						兼1	
憲法演習		2前		1				○						兼1	
行政法演習		2後		1				○						兼1	
民法（総則、物権）演習		2前		1				○						兼1	
民法（債権、親族・相続）演習		2後		1				○						兼1	
ミクロ経済学演習		2前		1				○						兼1	
マクロ経済学演習		2後		1				○						兼1	
法律科目演習Ⅰ		3前		1				○						兼1	
法律科目演習Ⅱ		3後		1				○						兼1	
経済科目演習Ⅰ		3前		1				○						兼1	
経済科目演習Ⅱ	3後		1				○						兼1		
行政科目演習Ⅰ	3前		1				○						兼1		
行政科目演習Ⅱ	3後		1				○						兼1		
会計学演習	3前		1				○						兼1		
専門科目記述式演習	3後		1				○						兼2	共同	
公務員試験直前対策Ⅰ（教養）	3前		1				○						兼1		
文章理解演習	3前		1				○						兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
自由選択科目	K I C I P 科目	人文科学演習	3前	1			○								兼1
		公務員試験直前対策Ⅱ（教養）	3後	1			○								兼1
		社会科学演習	3後	1			○								兼1
		自然科学演習	3後	1			○								兼1
		公務員試験直前対策Ⅰ（SPI）	3前	1			○								兼1
		公務員試験直前対策Ⅱ（SPI）	3後	1			○								兼1
		公務員試験直前対策Ⅲ（教養）	4前	1			○								兼1
		公務員試験直前対策Ⅲ（SPI）	4前	1			○								兼1
		公務員人物試験対策	4前・後	1			○								
小計（54科目）		—	0	70	0	—			0	0	0	0	0	兼12	
留学生特別科目	初級日本語ⅠA	1前・後		2			○								兼2
	初級日本語ⅡA	1前・後		2			○								兼1
	初級日本語ⅠB	1前・後		2			○								兼1
	初級日本語ⅡB	1前・後		2			○								兼1
	初級日本語ⅠC	1前・後		2			○								兼1
	初級日本語ⅡC	1前・後		2			○								兼1
	初級日本語ⅠD	1前・後		2			○								兼1
	初級日本語ⅡD	1前・後		2			○								兼1
	初級日本語ⅠE	1前・後		2			○								兼1
	初級日本語ⅡE	1前・後		2			○								兼1
	日本語講座Ⅰ	1前		2		○									兼1
	日本語講座Ⅱ	1後		2		○									兼1
	日本事情Ⅰ	1前		2		○									兼1
	日本事情Ⅱ	1後		2		○									兼1
	比較文化Ⅰ	2前		2		○									兼1
	比較文化Ⅱ	2後		2		○									兼1
小計（16科目）		—	0	32	0	—			0	0	0	0	0	兼9	
合計（240科目）		—	21	381	0	—			8	6	4	0	0	兼77	
学位又は称号	学士（教育学）	学位又は学科の分野			教育学・保育学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
総合共通科目30単位以上、専門教育科目76単位以上、自由選択科目18単位以上の合計124単位以上を修得すること。なお、自由選択科目には、自学科で単位修得した科目のうち卒業に要する単位数を超える科目、及び、自学部他学科もしくは他学部で単位修得した科目を含む。						1学年の学期区分			2期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要				
（人間科学部児童・幼児教育学科）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合 共通 科目	教養 教育 科目	文化・ 芸術 領域	<p>ことばと日本文化</p> <p>本授業科目は、グローバル化された現代日本社会を生きるために必要な「ことば教育」について学ぶ。 授業は3名の担当教員がリレー形式で行う。また、著名な外部講師による講演を1回行うため、必ず出席する。 担当教員と外部講師のそれぞれの専門分野における、日本の文化や文学を中心とした授業を通して、「ことば」の意義について考える。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（27 河原木 有二/5回） 空海の手紙、坂本龍馬、現代の物語作品に見える手紙、現代の物語作品の中の手紙、授業の統括</p> <p>（28 檜澤 葉子/5回） 江戸の文化・上方との文化、元禄歌舞伎、歌舞伎のジャンル、歌舞伎の役柄、学部講師による講演</p> <p>（29 大川内 夏樹/5回） 授業の構成、内容、日本の近現代詩における「視覚性」「聴覚性」「イメージ」「戦争」</p>	オムニバス方式
			<p>ことばと異文化</p> <p>本授業科目は異文化に関する諸分野（外国語・文化・文学・芸術など）について学ぶことで、異文化の多様性とそれぞれの歴史や現状についての知識と理解を深め、他者を理解する広い視野・態度・志向性を涵養し、併せて日本のことばと文化を相対化して捉え直す視点を涵養することを目的としている。「異文化」の範囲は限定されないため、授業では洋の東西を問わず外国の文化文学領域を専門にした複数の教員によるリレー方式を採用し、複数の国・地域のことばと文化を具体的に教授する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（2 中島 久代/5回） グレート・ブリテンの成立の歴史と複雑なアイデンティティ、イギリスの内なる他者と言われるケルトの文化、イギリスにおける桂冠詩人の役割・イギリス王室との関わり、イングランドの代表的な文学について、スコットランドの代表的な文学について</p> <p>（30 山下 高之/5回） フランスの食文化、習慣や国民性、フランスの小説『レ・ミゼラブル』</p> <p>（31 前原 志保/5回） 中国語圏の方のアイデンティティ、台湾の歴史、中華圏における4つの学生運動・市民運動、中華系の家族</p>	オムニバス方式
			<p>情報文化論</p> <p>社会のさまざまな場面で使われるようになった情報技術や人工知能(AI)、気づかないうちに私たちの社会や生活に深く入り込んでいて、多くの恩恵がもたらされるとともに、さまざまな課題も発生している。まず情報について総合的に着目することで、情報とは何か、また、情報技術が進むことで情報に対する対応の仕方の変化について考え、情報の役割について考察する。次に、5つの時代の試行錯誤を経て、AIが見せる次の時代の模様を展望すると同時に、なぜAIは人類への脅威であると言われていたのかについて説明し、さらに、AIの誕生から未来まで順を追って、ロボット、技術、人間社会との関わりなど多方面から解説する。</p>	
			<p>スポーツの文化</p> <p>2013年にTOKYO2020が決定して以降、スポーツの気運が高まったと言える。2011年に改正されたスポーツ基本法の前文では文化としてのスポーツも強調されている。しかし一方では、ハラスメントの問題などがメディアなどで取り上げられるようになり、その影響が社会を賑わせてもいる。改めて、スポーツは人間と社会にとってどのような意味を持つのか、理解を深めていくことが問われている。本授業では、スポーツの概念や歴史を踏まえ、現代におけるスポーツの捉え方（フェアプレイやスポーツマンシップなど）を学ぶ。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合共通科目	教養教育科目	歴史・社会領域	歴史と国際情勢	政治と国際問題を理解するために、国家とは何か、また、それほどのような政治的営みを行うか、国家以外にはどのような国際関係の主体があるかを明らかにする。また、国際政治に対する主要な理論（リアリズム、リベラリズムなど）に触れ、それらの理論の出現に大きな影響を与えた第一次世界大戦などの歴史について学習する。現代の国際的な課題についても学習する。その結果、政治と国際問題に対する基礎的知識と能動的な思考能力を身に付けることを目指す。	
		現代国家と法（日本国憲法）	「憲法とは何か」「現代社会において憲法はどのような重要性を持つのか」「人権にはいかなるものがあるのか」「国家のあり方に関する基本原理やルールとは」— こうした基本的問題について解説する。全体の構成としては、まず憲法とは何かについて概説した後、前半部では人権に関する項目、後半部では統治機構に関する項目を主題として講義を行う		
		暮らしと経済	人口・雇用・家族・租税・社会保障の5つの切り口から、生活と経済の関係を読み、同時に、総人口の半分を占める女性の活躍が、従来にも増して必要とされる理由と、これからの社会経済に、どのような影響力を持つのか、について考える。		
		人権・同和教育	私たちが生きていくうえで[人権]は重要な概念となる。この講義では[人権]とは何か、[人権]を学ぶことで何が得られ、何を行い、何をすべきではないかを学んでいく。また人権の歴史と現状を学ぶことで、[人権]の主体として行動することを通じて、差別や偏見にさらされている人々の痛みを共感できる「人間力」の育成を目的とする。私たちの社会にはさまざまな偏見や差別が存在する。この差別や偏見の意味を知ること、個人としてより良く生き、他者への尊敬をもち、多様性を認め合える社会の一員としての教養を身に付けてほしい。		
	人間・環境領域	人間と哲学	先が不安だといわれる現代社会においては、自分らしく生きていくためにはどうすればよいのだろうか。現実と理想のはざま、私が私らしくあるためにはどうすればよいのだろうか。この授業では、「この私」への問いを投げかける哲学を学びながら、自分で自分を見つめ、現代社会で生きる「私」のあり方を深く考える力を身に付ける。		
		生命と地球	この講義であなたは地球の壮大な歴史を学ぶことができる。なぜ哺乳類はお母さんのお腹の中から生まれるようになったのか。なぜ人類は2足歩行を始めたのか？北米大陸の先住民と日本人の容姿が似ているのはなぜか？70億人を超える人類は、たった35人の母親から始まったことはあまり知られていない。日本人に限っては、たった9人の母親から1億2000万人に増加した。最新の研究によって明らかにされた46億年にわたる地球の歴史と生物の進化を学ぶ。		
		心の科学	「心理学」は人間の心や行動を科学的に解明する学問である。人間の行動は他者、経験・記憶・認知、文化、生態学的変数、生物学的要素などさまざまな要因に影響を受けている。心理学はその因果関係を明らかにするものである。本講義では特に社会や集団の中の人間の行動や心理について紹介する。さらに記憶、知能、発達といった基本的な心理メカニズムについても取り上げる。		
		共生社会を生きる	本授業科目では、共生社会をみんなでどのように作っていくのか、という点について現実の諸問題を知ることから考えていく。エスニシティ、ナショナルリティ、ジェンダー、障がいなど人間のアイデンティティに関わるキーワードを押さえつつ、主にマイノリティが直面している状況について、歴史的背景を学びながら日本の現状を他国との事情比較も絡めて理解する。マジョリティ中心にさまざまな制度が設計されがちであることに意識を向けて、社会における「公平」とはどういうことなのかを考察し、今後の共生社会の可能性について検討することを目的とする。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合共通科目	言語・異文化理解科目	日本語表現法 I	大学生になると、自分の考えを文章で表現する機会が増える。試験で自分の考えを述べる問題に解答したり、レポートを作成したりする。そのため、日本語表現の基礎となる語彙や文法、表記に関する知識を身に付ける必要がある。また、社会では状況に応じた表現能力が必須となる。日本語表現法 I では、レポートの作成を中心に、これらの知識・技能の習得を目指す。毎回の授業では、授業内容を踏まえたワークシートに取り組み、知識の定着を図る。	
		日本語表現法 II	本授業科目では、書くこと・話すことに関する、より実践的な日本語運用能力の習得を目指す。資料の検索の仕方、レジュメの作り方、プレゼンテーションの行い方など、大学生活で必要とされる技術について学ぶ。さらに、小論文やエントリーシートの書き方といった就職活動で求められるスキルを身に付け、敬語でコミュニケーションする力など、日本語運用に関する社会人基礎力を養う。	
		伝わる文章力	本授業科目では、文章検定準2級レベルの文章力を身に付けることを目的とする。文章検定準2級のレベルは「実社会での有効なコミュニケーションを実現するために必要な文章読解力及び文章作成力」とされている。授業では、文章検定準2級の合格を目指して問題演習を行っていく。問題演習を通して、語彙力や文法に関する知識を身に付けるとともに、説得力のある文章の作成力を向上させる。同時に漢字検定2級レベルの漢字力も身に付けることを目的としている。	
		英語 I	大学では就職試験やTOEICなどに対応できる英語力が求められるが、このような内容にチャレンジするためには、今までの学力を土台とした更なる基礎固めが必要不可欠である。本科目では、文法項目を復習しながら、英文を4技能を通してバランスよく学習し、シンプルな英文を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりすることができる実践的運用能力を養う。	
		英語 II	就職試験やTOEICなどに対応できる英語力を習得するために、前期の英語Iと同様に、更なる基礎固めを引き続き行う。本科目では、学習した文法項目から成る英文を4技能を通してバランスよく学習しながら、複雑な英文を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりすることができる実践的運用能力を養う。	
		英語コミュニケーション I	本授業科目では、英語 I 及び II で固めた基礎力を土台にして、日常的に使われる英文や英語表現を、語学学習における4技能を通してバランスよく学習しながら、リスニングスキルとスピーキングスキルを高めることを目指す。	
		英語コミュニケーション II	本授業科目では、英語コミュニケーション I から継続して、日常的に使われる英文や英語表現を、語学学習における4技能を通してバランスよく学習しながら、リスニングスキルとスピーキングスキルをさらに高めることを目指す。	
		TOEIC入門	本授業科目では、英語IIと同時進行でTOEICに挑戦するために必要な基礎英語力を養いながら、TOEIC受験対策を実践的に行います。入門的な内容ですので、リスニングではPart1(写真描写問題)とPart2(応答問題)に頻出する英語表現とそれらの回答方法に馴れること、リーディングではPart5(文法)に頻出する基本的な文法事項の回答方法に慣れることに、それぞれ重点を置いた学習となります。	
		フランス語 I	フランス語をゼロから学ぶ。基礎的な文法習得と正しい発音による口頭練習を重視する。具体的には、前週に文法プリントを渡して宿題とし、翌週の授業冒頭に確認の小テストを行う。次いで、ペアによる会話練習、DVDを使った学習、練習問題による文法事項のより深い理解へと続く。DVDを使った学習としては、フランス語版「TOTORO」を使ってきまり文句を覚えたり、フランス旅行のビデオを見て異文化を理解したりする。	
		フランス語 II	前期「フランス語 I」の学習を継続する。前期同様、基礎的な文法習得と正しい発音による口頭練習を重視する。具体的には、前週に文法プリントを渡して宿題とし、翌週の授業冒頭に確認の小テストを行う。次いで、ペアによる会話練習、DVDを使った学習、練習問題による文法事項のより深い理解へと続く。DVDを使った学習としては、フランス語版「TOTORO」を使ってきまり文句を覚えたり、フランス旅行のビデオを見て異文化を理解したりする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合共通科目	言語・異文化理解科目	中国語 I	本授業科目は、初心者向きの入門コースである。短い会話文(8文字以内)の教科書を使用する。人気漫才コンビによる中国語発音のビデオを活用し、中国語学びの楽しさを求める。前期の中国語 I は、中国語漢字の発音符号である拼音(ピンイン)の習いをはじめ、初対面の挨拶、自己紹介、数字、日付などを学ぶ。また、「麻婆豆腐」など中華料理についての解釈は授業内容の一部である。この中国語授業の最終目標は「中国語で中華料理の注文ができる」ことである。	
		中国語 II	本授業科目は、中国語 I を習った者を対象とする。引き続き前期の会話中心のスタイルを堅持しながら書き能力にも力を入れる。最終目標の「中国語で中華料理の注文ができる」を実現させるため、中国語による中華料理メニューの学びに重点を置く。メニューについての解釈はもちろん、調理法、味付けに関する中国語の表現も多く学ぶ。実用と実践の内容として「直接注文」と「間接注文」などの注文するための基本文型を覚えてもらう。	
		韓国語 I	初めて韓国語を学ぶ学生向けの韓国語の初級入門クラスである。初級でつまずきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、文章・会話表現の基礎を固めていく。できる限りペア・グループワークを取り入れ、「聞いて話す」ことに重点を置きつつ、「読む」「書く」力の習得も目指す。また、画像・映像や実物などの資料を用いて韓国の文化、慣習、歴史なども適宜紹介し、文化・異なる価値観に触れるようにする。	
		韓国語 II	韓国語 I に続き、韓国語 II では韓国語 I で学習した表現などを活かし、初級でつまずきやすい発音をしっかりと練習しながら、文章・会話表現の基礎を固めていく。できる限りペア・グループワークを取り入れ、「聞いて話す」ことに重点を置きつつ、「読む」「書く」力の習得も目指す。また、画像・映像や実物などの資料を用いて韓国の文化、慣習、歴史なども適宜紹介し、文化・異なる価値観に触れるようにする。	
		イングリッシュワークショップ	英語でのプレゼンテーション能力は、グローバル化する現代社会において必要なスキルの一つです。本授業科目では英語でのコミュニケーション・プレゼンテーション能力を磨くことを目的として、ネイティブスピーカーを中心とした集中講義の形式で、英語のみを使用して様々なトピックでのトークやディスカッションを行い、英語で積極的にアウトプットすることを促す授業を展開します。	共同
		海外研修	本授業科目の目的は、海外研修によって国際感覚と語学力を養うことにある。本学の海外協定校が提供し、夏季・春季休暇中に実施される2~5週間の短期海外研修プログラムのうち、本学で実施する事前研修も含めて90時間以上となるコースに応募してそれを完了した場合、所定の手続きを経て2単位が与えられる。	
情報教育科目	情報処理演習 I	コンピュータを操作するために必要な基本知識と技術について演習を通じて学習する。ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本操作を演習し、わかりやすい資料を作り、人に伝えるための手法について習得する。さらに、電子メールの仕組みや操作、インターネットやWeb検索について学習すると同時に情報倫理について学び、情報社会のモラルを身に付ける。		
	情報処理演習 II	近年、データサイエンスが注目されている。さまざまなデータを対象として、データの収集・加工・処理、データの分析とその活用を目的として、基本知識と基本技術を学習する。主に表計算ソフトを使用するが、適宜他の題材も用いる。具体的なデータを用いて、データ活用と必要なスキルについて演習する。		
	情報処理演習 III	デジタルトランスフォーメーション(DX)に向けて、社会人として必要なスキルの1つとしてはデータ分析能力である。データベースの概要について理解するとともに、データの基本的な概念や分類、多様なデータの適切な管理・活用技能について学習・演習する。また、ビッグデータ解析の一手法としての時系列分析の基本的な各種分析手法を取り上げ、データ処理の考え方と手法について実践する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合共通科目	情報教育科目	情報処理演習Ⅳ	コンピュータを利用するための基本知識と基本技術を、プログラミング演習を通じて学習する。プログラミング言語を用いて、プログラミングとはどのようなものであるかを学習し、実際のプログラム作成の演習を通じて、プログラミングの基礎やアルゴリズムに対する基礎的な理解を深め、問題を解決するための考え方を学ぶ。	
		情報科学概論	情報の基礎概念とコンピュータの基本的仕組みについて学習する。デジタルとアナログの違いやハードウェアとソフトウェアさらにオペレーティングシステムの概念について理解し、さまざまな活用法についての知識を習得する。LAN やインターネット、通信技術の基礎的理解からWWW や電子メールによる実際の活用について学習し、コンピュータの動作原理を理解し、情報科学の基礎的理解を深める。	
		データサイエンス	得られたデータをどのように処理するのか、また、そこからどのような解釈が可能となるのかを体系的に理解する必要がある。さまざまなデータから科学的な知見を得るためには、統計学的手法を用いてデータ処理を行うのが一般的である。まず基本的な統計学の知識について学習する。次に具体的なデータを用いて実践的な統計処理や分析の仕方について学ぶ。	
		アルゴリズムとプログラミング	プログラミングに必要となる問題解決のための手順や方法であるアルゴリズムの基本知識やプログラムの基礎について学習する。プログラムの勉強に欠かせないアルゴリズムとは何かについて解説し、アルゴリズムの種類や役割、そしてアルゴリズムを学ぶ意味について学習する。また、問題を解決するための考え方などについて解説する。	
		ICT活用法	現代社会では多くのICTを活用することが社会人として必須となっている。コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段の操作に習熟するだけでなく、それぞれの情報手段の特性を理解し、有効、適切に活用することができるようになるための授業を行う。情報手段の特性を説明でき、ICT機器を適切に操作・活用できることにより、教育現場で授業中、準備と評価におけるICTの活用、企業におけるICTの活用に関する内容について実践的な学びを展開する。	
		情報処理技術	ITを利活用するすべての社会人・学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識について学習する。新しい技術（AI、ビッグデータ、IoT など）や新しい手法の概要に関する知識をはじめ、企業や経営全般の知識、IT（セキュリティ、ネットワークなど）の知識、プロジェクトマネジメントの知識など幅広い分野の総合的知識を学ぶ。ITを正しく理解し、効果的にITを利活用することのできる力を身に付ける。	
健康教育科目	スポーツ	受講生が新たな環境に順応できることを念頭に、スポーツに親しみながら健康や体力の保持・増進に努めることができるようにする。なお、運動の種目内容については受講生自らが選択することで、自己の体力に応じた楽しみ方での身体活動をおこなう。さらに、生涯にわたって健康で自主的な生活を営むことのできるよう、その基礎・基本について学習する。		
	健康の科学	人間の身体と心の健康について科学的、実践的に学ぶ。心の健康については精神的なストレスが身体に及ぼす影響や依存症、摂食障害などを理解したうえで自己の生活を振り返り、健康状態や生活習慣のあり方を追究する。身体の健康については現在の自己の生活習慣を見直し、体重・体脂肪・コレステロールなどのコントロールの方法や運動による対処法を検討する。自己の健康管理能力を高めるだけでなく、教育者として子どもの健康管理について学ぶ。		

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 共通 科目	キャリア 教育 科目	キャリア デザイン 領域	キャリア基礎演習Ⅰ	学生が社会において自身の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するため、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力を身に付けることを目的とし、学修などの記録（学修ポートフォリオ）を習慣付け、自己理解・自己管理能力の育成を図る。また、科目の担当は担任制とし、年間を通して継続的な修学支援を行う。さらに、教員と学生および学生間のコミュニケーションを深め、コミュニケーション力を身に付けるとともに、学生の学修意欲を高める。	
			キャリア基礎演習Ⅱ	学生が社会において自身の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するため、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力を身に付けることを目的とする。学修ポートフォリオへの記録を継続するとともに、学修内容などの振り返りを通して、自己理解・自己管理能力および課題対応能力の育成を図る。また、科目の担当は担任制とし、年間を通して継続的な修学支援を行う。さらに、教員と学生および学生間のコミュニケーションを深め、コミュニケーション力を身に付けるとともに、学生の学修意欲を高める。	
			キャリア基礎演習Ⅲ	学生が社会において自身の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するため、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力を身に付けることを目的とする。学修ポートフォリオへの記録を継続するとともに、学修内容などの振り返りを通して、自分自身の課題などを把握したうえで、自身のキャリアを考える。また、科目の担当は担任制とし、年間を通して継続的な修学支援を行う。さらに、教員と学生および学生間のコミュニケーションを深め、コミュニケーション力を身に付けるとともに、学生の学修意欲を高める。	
			キャリアデザインⅠ	「キャリアデザイン」とは、大学でどのように学ぶか、学んだことを軸に将来どのように生きるか、どのように働くかなど、自分の人生のキャリアを考え準備する科目です。この「キャリアデザインⅠ」では、大学教育への導入を行い、将来のキャリア設計のための必要な社会人基礎力の育成に着手します。導入教育として、本学の建学理念、本学が育成する人材像、どの所属学科でも必ず学ぶ総合共通科目の意義、本学のモットーである「強くてしなやか」な大学生・社会人となるためのマナーなどについて学んだ後、社会人基礎力の一つ「チームで働く力」を身に付けるためのチームでの課題解決型学習に取り組みます。また、有意義な大学生活を構想するために、現在の皆さんの社会人基礎力の測定し、大学での学びでそれがどのように伸びるか、可視化し自分自身で把握するために、アセスメントテスト「GPS-Academic」を受検します。	
			キャリアデザインⅡ	本授業科目は、自らが希望する卒業後のより良い進路を獲得するためのものである。社会で求められる人物像や職業についての理解を深めながら、自己に適した職業を明確にするとともに、将来に向けての準備（就職活動）を行う。そのため、講義だけではなく、個人ワークやグループディスカッションなどを取り入れた授業を実践的に展開する。	
			キャリアデザインⅢ	本授業科目は、自らが希望する卒業後のよりよい進路を獲得するためのものである。社会で求められる人物像や職業についての理解を深めながら、自己に適した職業を明確にするとともに、将来に向けての準備（就職活動）を行う。そのため、講義だけではなく、履歴書の作成や学内業界研究セミナー、面接対策などを取り入れた授業を実践的に展開する。	
			インターンシップⅠ	本授業科目は、就業体験としてのインターンシップを行うために必要な知識・理解、技能、態度・志向性を涵養することを目的とし、次の4つの内容について座学と研修を組み合わせた集中講義形式で開講する。 (1) インターンシップの持つ意味、インターンシップのあり方、社会が求める主体性を発揮する人材とは、などについての講義 (2) コミュニケーションの取り方や傾聴力育成のワークの実践 (3) 北九州市が力を入れる取り組みと企業の種類や特色についての講義 (4) 市内企業の訪問し、企業についての知見を深める。	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合共通科目	キャリア教育科目	キャリアデザイン領域	インターンシップⅡ	<p>本授業科目は実際にインターンシップに参加することで、就業やキャリア形成についての意識や考え方を深め、職業人としての即戦力を身に付けることを目的とする。民間企業や官公庁などが実施する各種インターンシップに参加し、社会人基礎力としてのコミュニケーション力・分析力・課題解決力・行動力などの能力の育成にどのように努力したか、また実際にどのような体験が得られたかを報告書としてまとめ、必要な時間を積み上げて単位とする。</p> <p>「インターンシップⅠ」の2単位を修得後に、大学での事前学習も含めて実際に参加した通算90時間以上の実習に対して、所定の手続きを経て2単位が与えられる。</p>	
		キャリア発展領域	スキルアップ講座B	<p>本授業科目では、TOEIC受験対策の英語、または英検受験対策の英語を実践学習する。TOEIC対策では、リスニング力・文法力・長文読解力・語彙力などのスキルを向上させ、リスニングとリーディングの問題解答のコツを学ぶ。英検対策では、短文・会話文・長文の穴埋め問題の解答のコツを学び、典型的なトピックについて英文での論述を実践する。学習の成果を確認するために、学内開催のTOEIC IPとTOEIC Bridge IPや学内実施の英検にトライする。</p>	
		スキルアップ講座C	<p>前期のスキルアップ講座Bから継続して、TOEIC受験対策の英語、または英検受験対策の英語を実践学習する。TOEIC対策では、リスニング力・文法力・長文読解力・語彙力などのスキルをより向上させ、リスニングとリーディングの問題解答のコツを継続して学ぶ。英検対策では、短文・会話文・長文の穴埋め問題の解答のコツを継続して学び、典型的なトピックについて英文での論述も継続して実践する。学習の成果を確認するために、学内開催のTOEIC IPとTOEIC Bridge IPや学内実施の英検にトライする。</p>		
		スキルアップ講座F	<p>専門職としての教職について、現場での観察や討論等を通して理解を深めていく。現場での観察を授業に位置づけ、小学校及び特別支援学校教員として必要な資質や能力を身につける。また、教育現場における今日的課題について、その定義、背景、具体的事例や各自治体の対策等を学ぶ。それをもとに、討論を通して、その内容を深め、教員採用試験合格に向けた取り組みを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 高良 秀昭/4回) 授業内容・履修方法、小学校教育におけるいじめに関する問題、特別支援教育に関する問題、授業統括</p> <p>(① 城 佳世/2回) 小学校教育におけるキャリア教育に関する問題、人権教育に関する問題</p> <p>(9 萬徳 紀之/2回) 自己課題の設定、小学校の教育現場での観察</p> <p>(12 作田 澄泰/2回) 昨今の学力調査の結果から見える課題や教育事情、教員に必要な資質・能力について</p> <p>(15 押井 那歩/2回) 教員採用試験の概要、小学校における不登校に関する問題</p> <p>(17 内田 由香利/3回) 小学校の教育現場での観察、学力向上に関する問題、地域や家庭との連携に関する問題</p>	オムニバス方式	
		スキルアップ講座G	<p>専門職としての教職について知識と理解を深め、教員に必要な資質・能力と自分自身の適性を結びつけ、めざす教員像を明らかにする。教育の今日的課題とボランティアにおける自分自身の経験等を関連づけて、言葉で表現することができるように表現の技術について学ぶ。さらに、これを生かして小論文を書いたり、面接を行ったりすることを通して、教員採用試験合格に向けての実践力を身につける。</p>	共同	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 共通 科目	キャリア 教育 科目	キャリア 発展 領域	スキルアップ講座H	専門職としての教職について知識と理解を深め、目指す教員像を明らかにする。学力向上（アクティブラーニング・ICT等）、生徒指導上の諸問題（いじめ、不登校等）等の今日的課題と、ボランティアや教育実習における自分自身の経験等を関連づけて、言葉で表現することができるように表現の技術について学ぶ。さらに、これを生かして小論文を書いたり、面接を行ったりすることを通して、教員採用試験合格に向けての力をつける。	共同
			スキルアップ講座I	<p>専門職としての教職について知識と理解を深め、教員に必要な資質・能力と自分自身の適性、志望自治体の求める教員像を結びつけ、自分自身が目指す教員の姿を明確にする。教育の今日的課題とボランティアにおける自分自身の経験、教員を志望する動機等を関連づけて、考えることができるようにする。さらに、集団討論や面接、模擬授業の中で、これらをわかりやすく相手に伝えることができるようにする。</p> <p>(1 蒲原 路明・5 堺 正之・2 中島 久代・9 萬徳 紀之・① 城 佳世・12 作田 澄泰・13 吉村 圭・15 押井 那歩・17 内田 由香利/10回) 授業内容・履修方法、集団討論・集団面接・学科試験、個人面接、模擬授業、場面指導、教科模擬授、特別活動模擬授業</p> <p>(1 蒲原 路明・5 堺 正之・2 中島 久代・9 萬徳 紀之・① 城 佳世・12 作田 澄泰・13 吉村 圭・15 押井 那歩・17 内田 由香利・4 高良 秀昭・3 谷口 幹也・6 鳴海 正也・8 青山 優子・10 堀江 幸治・14 本多 辰之・11 大谷 誠英・16松本 真理子/3回) (共同) 集団討論、集団面接・学科試験</p> <p>(1 蒲原 路明・6 鳴海 正也・10 堀江 幸治/1回) 特別支援教育</p> <p>(2 中島 久代・① 城 佳世・14 本多 辰之/1回) 音楽・体育・英会話等の実技</p>	オムニバス方式・共同（一部）
			スキルアップ講座J	<p>「子どもの自発的な遊び」、「絵本」等の児童文化財の保育・教育上の意義と活用法を学び、アクティブ・ラーニング実践「絵本からはじまるプロジェクト学習」とおして、主体的な学習者としての自覚を促し、実社会で求められるコミュニケーション能力を身に付け、保育・教育の場で積極的に問題解決に挑む態度と能力を涵養することを目的とする。</p> <p>(1 蒲原 路明・5 堺 正之・2 中島 久代・9 萬徳 紀之・① 城 佳世・12 作田 澄泰・13 吉村 圭・15 押井 那歩・17 内田 由香利・4 高良 秀昭・3 谷口 幹也・6 鳴海 正也・8 青山 優子・10 堀江 幸治・14 本多 辰之・11 大谷 誠英・16松本 真理子/6回) (共同) オリエンテーション、環境構成、材料、方法の精査、材料、道具の制作、絵本から生じるプロジェクト学習、自信の保育者像・教育者像を描く</p> <p>(3 谷口 幹也・8 青山 優子/9回) 保育・教育の在り方、遊びの多様なフェーズ、絵本を学ぶ、絵本からはじまるプロジェクト学習、グループワーク、活動成果を第三者に伝える</p>	オムニバス方式・共同（一部）
スキルアップ講座O	本授業科目はピアノ未経験者、または音楽の基礎知識を理解できていない学生を対象とする。2年次前期開講科目である「器楽基礎」においてピアノ経験者と同様に授業内容を理解できるよう、ピアノ演奏の基礎知識や基礎技能を習得することをねらいとする。小テスト、演習、個別の実技指導を適宜行うことで理解を深める。				

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合共通科目	キャリア教育科目	キャリア発展領域	スキルアップ講座R	スキルアップ講座B・Cからさらに発展的なTOEIC受験対策、または英検受験対策の実戦的学習を行う。TOEIC対策では、リスニング問題Part 3とPart 4の対策の強化、リーディング問題ではPart 6とPart 7の対策の強化に重点を置き、英検対策では、英文論述問題とリスニング問題への取り組みを強化する。学内および学外のTOEICテストで550点に到達すること、英検では2級の合格を到達目標とする。	
			スキルアップ講座S	前期のスキルアップ講座Rから継続して、発展的なTOEIC受験対策、または英検受験対策の実戦的学習を行う。TOEIC対策では、リスニング問題Part 3とPart 4の対策の強化、リーディング問題ではPart 6とPart 7の対策の強化に重点を置いた学習を継続し、英検対策では、英文論述問題とリスニング問題への取り組みの強化を継続して行う。学内および学外のTOEICテストで550点に到達すること、英検では2級の合格を到達目標とする。	
専門教育科目	学部共通科目		人間科学概論	<p>「人間科学」とは、人間とは何かについて考え、人間そのものをさまざまな角度から分析・研究していく学問である。人間が健康的かつ文化的で豊かな人生を送るため、また多様な人々が共生できる社会を実現するために、対人援助職などの人と深く関わる職業に求められる能力の基礎を育成したい。そのためにまず概論として、心理学・教育学・社会学等多面的な視点から人間や社会を見る基礎的な知識を修得する。学修する過程において、受講生が自身の生き方や人間観を考える契機を与えるとともに、職業観などの進路選択のための基本的な知識・技能（自己決定力を含む）を養っていくことも意図する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(③ 江口 恵子/5回) オリエンテーション、人間科学の研究内容と研究方法、子ども観の歴史、現在と教育の重要性、子どもの遊びと人間形成、授業の統括と全体のフィードバック</p> <p>(3 谷口 幹也/3回) 美的な経験と人間教育の関係、創造性と人間教育の関係、表現と人間教育の関係</p> <p>(5 堺 正之/2回) 教育者・保育者に求められる倫理観・人間観の在り方、理解と自己の可能性をプレゼンテーションする</p> <p>(8 青山 優子/2回) 成長過程における経験と人間発達、保育の現状、実践と家庭支援</p> <p>(10 堀江 幸治/3回) 特別支援教育の背景と対象範囲、意義、インクルシブ教育の現状とニーズ、社会発展・職業と教育の関係、求められるスキル</p>	オムニバス方式
			心理学概論	心理学の重要な基礎的知識についてできるだけ広範囲に学ぶことが目的である。はじめに、心理学の諸領域の紹介と歴史的背景、心理学の成り立ち、研究方法について概略を説明する。その後、行動の生物学的側面、行動の変容や知識獲得に関する学習の側面、情動、感覚と知覚、認知、記憶と忘却、パーソナリティの形成と知能、臨床心理学の基礎など、歴史的背景に触れながら理論的変遷も含め、人の心の基本的な仕組みおよび働きについて解説する。	
			発達心理学	発達心理学は、生涯発達という視点から、時間の経過とともに人のこころと身体に生じる変化の過程について学ぶものである。本講義では、乳児期から幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童生徒及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）に焦点を当て、発達に関する基礎的な知識・理論を学習する。また、これらの知識に基づいて、近年教育現場で問題となっている発達の障害等についても理解を深めていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	学部 共通科目	学習・言語心理学	本授業科目では、経験を通して人の行動が変化する過程を説明できること、および、言語の習得における機序について学ぶ。本授業では学習心理学と言語心理学の内容を扱う。扱う学習心理学のテーマとしては、条件付け、知識の獲得、問題解決学習、技能学習、社会的学習などである。言語心理学は言語獲得とその背景にある理解や思考を対象とする。この言語学習の過程を捉えるために扱うテーマとしては、話し言葉の獲得、文字の獲得、語彙の獲得、文章理解力、文章の産出、第二言語の獲得などである。	
	コミュニケーション概論	現代社会においてコミュニケーションは欠くことができないものの、それに関する言説は膨大で科学的に妥当なものとはいえないものも数多く存在する。本授業科目では、社会心理学を中心とした科学的視点からコミュニケーションについて概観し議論する。具体的には、社会的認知、社会化過程の発達、学校教室におけるリーダーシップ、対人関係における社会的影響、健康行動や障害をもつ人とのコミュニケーションなどの観点から検討する。		
	社会調査法	社会調査は社会生活に関連する事柄について理解するために重要な役割を果たす。同時に、現代社会においては多数の社会調査が存在し、調査の結果が身の回りにあふれている。そこで、それらの情報を自ら精査し、解釈する能力の重要性が一層高まっている。この授業では、さまざまな社会調査の手法や計画・実施の手順について学ぶことに加え、社会調査の目的や意義を理解し、調査から得られたデータを適切に解釈できる力を養うことを目的とする。		
	教育・学校心理学	本授業科目は、教育心理学と学校心理学を統合した科目である。教育・学校心理学では、それぞれの学問の観点から、教育現場において生じるさまざまな問題と行動およびその背景について学ぶ。この部分では不登校、いじめ、学力低下、進路指導などについて扱う。加えて、「教育現場における心理社会的課題および必要な支援方法について学ぶ。」の部分では、特に、幼児・児童・生徒、保護者、教職員に対する相談・援助、助言などを取り上げる。		
学科 共通科目	初等教育領域			
	特別支援教育の理解（障害児支援教育）	本授業科目では、前半に障害の定義を明らかにし、特別支援教育の歴史やインクルーシブ教育について学ぶ。そのうえで、特別支援教育の対象となる幼児児童の特徴や障害について、知識を身につけることを目的とする。後半では、それぞれの障害についての定義や原因、アセスメント、支援を学び、教育的ニーズに応じた実際の支援・援助の方法について考える。		
	教職概論	教育職員としての教師にとって必要なことを学ぶ基本的・入門的な内容である。教職の意義や教師の役割、教師の仕事内容についての理解を深め、自分の教職への意欲、適性を考える機会とする。具体的には、現在の教員に求められている資質能力及び資質向上のための研鑽や研修、教員養成の歴史、教師になって関わる教育・指導の内容、チーム学校の運営の必要性、学校を中心とした職場環境等について講義する。		
	教育原論	学校教育を中心とした教育の営みの歴史、構造、内容や方法等について、基礎的、基本的な理解を内容とする。具体的には、第一に今日の重要な教育事象を切り口として、子どもの教育の現状や課題について関心を持つこと、第二に、今日に至る教育の営みの歴史について基本的に理解すること、第三に、教育の機会均等や義務教育、あるいは学習指導要領等、教育の理念や制度、様々な思想に関する基礎的、基本的知識を習得すること、そして第四に、学校教育が今日の社会の変化のなかで果たすことのできる機能について考えること、以上を内容とする。		
	教育心理学	生徒が「わかる」ために教師が行う指導をすること、生徒が「知る」ために教師が自発的な意欲を育成すること、心身の発達過程と学習過程について理解するとともに、教育場面でどのように生かすのかを学ぶ。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	学科共通科目	教育制度論	教職を目指す上で理解しておくべき教育制度や教育行政に係る基本的な概念や重要事項を学ぶとともに、近年の教育政策の動向について理解すること目標とする。また、日本と外国の教育制度について比較するとともに、学校と地域との連携、学校安全への対応について学ぶ。	
		特別支援教育論	通常の学級にも6.5%程度在籍していると言われる発達障害を含めて、様々な障害のある児童生徒等の学習上、生活上の困難を支援するための教育等について、基礎的事項を知るとともに、ICFの考え方やインクルーシブ教育の推進等に代表される様々な背景を通して、特別支援教育の理念、意義、在り方等を理解することにより、将来の教員としての専門性の基盤を培う。	
		教育方法・技術論（情報通信技術の活用を含む。）	本授業科目のねらいは、二つあります。一つは、現在の日本の学校教育で求められている教育実践とは何かを理解することです。もう一つは、次々に登場する教育にかんする流行に踊らされることなく、さまざまな教育実践や教育学研究の成果に学びながら、「よい授業」をつくるための基盤を作ることです。 以上の二つのねらいを達成するために、本授業では、教育方法（主に授業づくりと教育評価）に関する基礎的な知識や近年の学校教育に期待される役割について学んでもらうと同時に、教育について多様な観点から批判的に考えることにチャレンジしてもらいます。そのため本授業は、教員による講義と、学生自身が取り組むワークによって展開していきます。	
		教育課程論（初等）	教育課程は教育活動の基盤であり、教育目標を達成するために児童・生徒の心身の発達に応じて組織・編成した教育計画である。本授業科目では、教育活動の基本である教育課程の意味や意義、編成・実施・評価の留意点などについて概説するとともに、学習指導要領の変遷や改訂された学習指導要領に基づく、学習指導内容や方法をはじめとして児童の発達実態や教育課程改善の基本的な考え方について実例を踏まえ、理解を深める。また、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義や重要性について理解を深める。	
		初等教育実習事前事後指導	[児童教育コース] 小学校教諭免許状取得をめざして教育実習の意義と目的を理解するとともに、教育現場に教員経験がある担当教員が、小学校教諭の職務や責任、学校組織等について説明する。また、教育実習校との連絡や実習をスムーズに進めるために、児童との関わり方や学習指導案または指導計画に基づいた授業運営等、小学校教諭として求められる専門性を深めていく。	共同
			[幼児教育・保育コース] 幼稚園教諭免許状取得をめざして教育実習の意義と目的を理解するとともに、幼稚園教諭の職務や責任、園組織等について説明する。また、実習園との連絡や実習をスムーズに進めるために、幼児との関わり方や保育計画に基づいた授業運営等、幼稚園教諭として求められる専門性を深めていく。	共同
		初等教育実習Ⅰ	所定の単位を履修し、事前指導を修了した学生が教職に就くために最低限必要な学外での実習指導である。小学校・幼稚園の2つの免許を取得する場合は小学校で4週間1回、あるいは、幼稚園で2週間ずつ2回（計4週間）、小学校免許のみの場合は、小学校で4週間1回の実習となる。実習はこれまで学んできたことを実践する機会である。教育現場の実態に触れ、多くを学ぶことが期待される。なお、実習中には担当教員が実習校と打ち合わせて巡回指導を行う。	共同
		初等教育実習Ⅱ	所定の単位を履修し、事前指導を修了した学生が教職に就くために最低限必要な学外での実習指導である。小学校・幼稚園の2つの免許を取得する場合は小学校で4週間1回、あるいは、幼稚園で2週間ずつ2回（計4週間）、幼稚園免許のみの場合は幼稚園で2週間ずつ2回（計4週間）の実習となる。実習はこれまで学んできたことを実践する機会である。教育現場の実態に触れ、多くを学ぶことが期待される。なお、実習中には担当教員が実習園と打ち合わせて巡回指導を行う。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	学科 共通科目	<p>障害者教育総論Ⅱ</p>	<p>障害者教育総論Ⅰの学習を基に、障害のある児童生徒等の教育課程や指導内容・方法について詳細な事項を知るとともに、学校における実践上の課題等の理解を通して、特別支援教育の理念、意義、在り方等について、より深く学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 高良 秀昭・6 鳴海 正也・10 堀江 幸治/3回) (共同) オリエンテーション、バリアフリーと共生社会、特別支援教育の今後の課題、統括</p> <p>(4 高良 秀昭/6回) 特別支援教育の制度、特別支援学級における教育及び各教科等を合わせた指導、通級による指導及び自立活動、就学支援、特別支援学校における教育及び重複障害、学びの連続性</p> <p>(6 鳴海 正也/3回) 障害者統計、障害者福祉、障害者福祉の福祉現業</p> <p>(10 堀江 幸治/3回) 障害児のコミュニケーションの発達、障害児の動作発達、特別支援学校で行われる授業の特徴</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
		<p>病弱教育</p>	<p>病弱者である児童生徒は種々の要因により一般に学習時間に制約を受けている他、学習の空白や遅れ、身体活動の制限等を伴う場合が多い。これに基づいて、病弱教育の歴史、小児医療の到達点をふまえ、病弱教育の制度・教育課程・指導法の概略を理解する。また、病弱児の生理・病理・心理的特性を理解し、特別支援学校学習指導要領に基づいた病弱児に対する指導の基本を理解する。</p>	
		<p>知的障害者の心理・生理・病理</p>	<p>知的障害および関連障害の心理・生理・病理に関して、生命科学の基礎知識に基づき、時期別・遺伝等要因別における、知的発達に影響を及ぼす諸疾患について概説する。また、生理的特性から生じる心理行動特性評価法など、特別支援学校で用いられることの多い検査法と特性に応じた指導の工夫についても学ぶ。</p>	
		<p>知的障害者教育</p>	<p>ICFの考え方やインクルーシブ教育の促進等の理念を基盤に、知的障害のある児童生徒等の教育課程や指導内容・方法について基礎的事項を学ぶとともに、知覚、認知、学習、言語、数概念、記憶、注意、動機づけ、運動等の学習・行動上の特性等を理解した上で、各々に対する具体的な支援法を学ぶことにより、将来特別支援教育に携わる教員としての専門性の向上を図る。</p>	
		<p>肢体不自由者の心理・生理・病理</p>	<p>この授業では、脳性マヒを中心に、肢体不自由のある児童・生徒の心理・生理・病理の基礎を学ぶ。具体的には、肢体不自由のタイプ、身体制御過程や随伴障害、それに伴う学習上・生活上の困難などについて、生理・病理的視点から概観する。さらに、肢体不自由教育において重要となる医療・心理療育との連携の問題について、理解を深める。</p>	
		<p>肢体不自由者教育</p>	<p>この授業では、肢体不自由者教育の教育課程や教育にかかる基本的な考え方(実態把握や授業づくり・教材研究など)を学ぶ。教育についての基本的な考え方については、①各教科の指導における肢体不自由者特有の学習上の課題、②それを踏まえた望ましい授業づくりの在り方、③自立活動の在り方、以上の3点の理解を重視する。</p>	
		<p>肢体不自由者指導法</p>	<p>この授業では、特別支援学校における肢体不自由者指導法を中心に、肢体不自由者の社会参加に必要と思われる教育的指導・支援について学ぶ。指導法については、昨年度後期科目「肢体不自由者教育」を踏まえ、授業づくりの方法(学習指導案や教材の作成方法、授業における留意点など)を重視する。また、摂食指導やICT機器の活用、進路指導や防災教育など、近年の肢体不自由部門で必要不可欠なトピックを織り交ぜ、専門性の向上につなげていく。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科共通科目	発達障害教育総論	ICFの考え方やインクルーシブ教育の推進等の理念を基盤に、学習障害、注意欠陥・多動性障害、自閉症スペクトラム障害、発達性協調運動障害等の発達障害のある児童生徒等の教育課程や指導内容・方法について基礎的事項を学ぶとともに、学習・行動上の特性等を理解した上で、行動分析、認知療法等の具体的な支援法を学ぶことにより、将来特別支援教育に携わる教員としての専門性の向上を図る。	
		病弱者の心理・生理・病理	病弱・虚弱児対象の教育現場は、内科系疾患から精神的問題を抱える児童生徒まで非常に幅広い対象に対して教育を行う。そのため専門教員には児童生徒の理解の基本として、対象児を理解しておくことは、医療との円滑な連携を図る上でも重要である。本授業科目では該当分野の主要疾患を取り上げ、その生理的・病理的および心理的特性を理解し、治療、生活規則をはじめとする日常的な留意点などについて概説する。	
		障害者の病理・保健	障害児・者の適切な支援のためには、様々な障害・疾患が生じる病理や保健に関する適切な知識を獲得し、理解を深めることが重要である。本授業科目では学校教育の観点から、障害理解を進めるための気づき、対応（適切な支援）の内容・方法を学び、支援の在り方を身に付ける。	
		知的障害者指導法	ICFに示される社会参加を目指す見地から、特別支援学校学習指導要領の中に示されている知的障害児教育の内容に基づき、児童生徒が課題に取り組むための具体的な指導ポイントと、知的障害児の支援に必要な知識を学ぶ。また学齢期を過ぎた知的障害者支援の実際について理解を深め、知的障害児の教育や支援のあり方について考察する。	
		視覚障害教育総論	視覚障害の生理、病理及び視覚障害児の心理等の基本理解を基に、視覚障害の特性に配慮した専門的指導内容や指導方法、適切な教材・教具の使用法についての知識・技術を身につけると共に、視覚障害者の福祉や労働等関係分野等の理解を深める。	
		聴覚障害教育総論	聴覚障害児の心理・病理・生理に関する基礎的知識を基礎に、聴覚障害の原因・症状について理解を深め、聴覚障害による言語や社会性の発達を促す有効な支援、配慮事項、学校生活での聴覚活用の有効性について学ぶ。	
		重複障害教育総論	重複障害は、発達の遅れ、コミュニケーションの不成立、環境への適応困難、問題行動等が著しく、常時介護を必要とするケースが多い。この授業では、重複障害児の理解を深め、教育課程や指導法について学ぶ。具体的には、重複障害教育に係る法・規程や指導目標・内容等を概観し、指導事例を通じて、重複障害児の指導のあり方を考えたい。	
		特別支援学校教育実習事前事後指導	特別支援学校教員免許取得を目指す上で、最も重要な学習成果実践の場である特別支援学校教育実習の意義を理解する。これまでの特別支援学校教育関連の科目で得た知識を生かして、特別支援学校教育実習において必要な実態把握、実態に応じた授業計画の立案から教材研究に至る教育技術を身につけ、同時に特別支援学校教員に相応しい専門知識に裏付けられた適切な態度を養う。	共同
	特別支援学校教育実習	特別支援教育の中核を担う特別支援学校の教員として必要な知識及び技術を身に付け、実際の特別支援学校において、児童生徒の障害及び発達の実態に応じた教育計画を立案し、実践する。	共同	
コース科目	児童教育コース	国語科教育概論（書写を含む。）	母語としての言葉は、私たちの日常（物の見方・感じ方、あるいは他者との交流）を支えるばかりではない。自分自身や対象を捉え、表現する言葉の獲得は、個の成長とも密接に関わるものである。国語を私たちにとって身近で当たり前にする「言葉の学び」という視点から捉え、国語科教育の意義と目標、指導の系統性や方法を理解することができるようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目	児童教育コース		
		算数科教育概論	小学校の算数科授業を行うための基底となる算数科教育に関する基本的な内容について学ぶ。授業は、わが国の算数科教育の歴史や指導上の課題、小学校算数科の目標及び内容、各学年の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い、これからの算数科教育の方向性から構成する。これらの授業を通して、今日求められている算数科教育のあり方、指導者の役割について考えを深める。	
		生活科教育概論	生活科学習指導の基礎・基本について、理論的側面から解説する。「生活科の授業で育てる子ども像」を手がかりとして、目標論・内容論・方法論・評価論について学習を進める。また、具体的な実践事例を基にこれまでの生活科の確かなあゆみと今後の展望について考察していく。	
		社会科教育概論	初等教育を中心に社会科教育について概括的に学ぶ。具体的には、社会科の歴史および学習指導要領の変遷を概観することを通して、社会科の目的等の基本的な性格について説明する。また、そうした基本的な性格が、社会科の内容・方法等と密接に関連していることを説明する。これらを踏まえ、社会科の教材や実践を分析的に考察するとともに、学習指導案を作成し、公民としての資質・能力の基礎を育成する小学校社会科の授業づくりの基礎を身につけることができるようにする。	
		図画工作	本授業科目では、改定された小学校学習指導要領に基づき、子どもの主体性、創造性を育む造形表現を学ぶ。「造形遊び」を体験し、実際の表現活動をととして、幼児教育における表現活動の役割、小学校教育における図画工作科の目標と内容、役割を学ぶ。	
		理科教育概論	小学校の理科授業を行うための基底となる理科教育に関する基本的な内容について学ぶ。授業は、わが国の理科教育の課題、小学校理科の目標及び内容、各学年の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い、これからの理科教育の方向性から構成する。これらの学修を通して、今日求められている理科教育のあり方、指導者の役割について考えを深める。	
		家庭科教育概論	小学校家庭科の目標及び内容構成、学習方法に関する事項と、家庭科学習に関する内容の基礎的知識と技能を獲得するため、講義の聴講だけでなく、グループディスカッションや製作実習を含む演習を行う。家庭科の重要語について解説するほか、家庭科授業のDVD視聴をして教材や指導法に関して協議を行い、指導の留意点を整理していく。指導者としての視点はもちろん、一人の生活者としても、衣食住生活や消費・環境、家族との関わり等に知的関心を向けてほしい。	
		体育	幼児体育及び学校体育を実施する上での概念やポイントを学ぶ。また、実技をととして幼児期・児童期に身につけるべき、運動技能の基礎・基本さらには安全について学習する。また、幼児期から児童期における動きの系統性を中心に、青年期・壮年期へと発達段階をふまえた体育の理論的 pursuit と生涯体育の在り方についてまとめていくこととする。	
器楽基礎	小学校教育、幼児教育の現場で必要とされるピアノ演奏技術及び弾き歌いを修得することを目的とする。習熟度によって3段階（グレード）に分かれ、個々の演奏能力に応じた課題曲を学習する。グレード1はピアノ初心者を対象とし、ピアノの基礎を学ぶ。グレード2はやや難易度の高い課題曲、グレード3はピアノ経験者で「小学校」希望者と「幼稚園・保育園」希望者に分かれて、それぞれの課題について学ぶ。授業にあたっては、演奏能力に応じた個別指導とグループ指導の形式でレッスンを行う。			
声楽基礎	保育・教育現場で必要とされる歌唱能力を身につけることを目的としている。合唱曲を歌うことで、基本的な発声を学び及び音程、リズム、和声を感じ取る能力、及び曲想表現などの表現力を育てる。また、固定ド、移動ドの階名唱を行うことによって、調性を理解することができるようにする。また、唱歌・童謡・新しい子どものうたについて理解し、歌うことを通して、保育園・幼稚園・小学校・特別支援学校の現場で活用することのできる歌のレパートリーを増やす。			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	コース 科目	児童 教育 コース	国語科指導法	授業前半では、小学校学習指導要領で示されている教育目標、育成を目指す資質・能力を理解する。また、教科「国語（書写を含む）」の教材研究、教材の活用方法及び学習指導案の作成能力を身に付ける。後半では、実践的指導力の育成のため、グループごとに模擬授業を行う。	
			社会科指導法	小学校教員として必要な社会科の授業設計力および実践力の育成を期して行う。具体的には、学習指導要領を分析的に考察し、公民としての資質・能力の基礎を育成するための授業、教材、板書等について計画し、単元レベルの小学校社会科学習指導案を作成することができるようにする。模擬授業形式による演習を主とするが、授業づくりの基本的な考え方、学習指導要領の目標、内容などについては、部分的に講義形式を取り入れつつ進める。	
			算数科指導法	算数科で指導する4領域について、その内容に加え、授業での扱い方・指導法について学ぶ。また、実際に授業設計として学習指導案を作成し、模擬授業を行う中で、算数科教育の実際を学び、具体的な指導方法について考察する。演習が伴う講義では、用具（三角定規、分度器、コンパス、はさみ等）を必要とすることもある（事前の講義で連絡する）ので、忘れないようにすること。	
			理科指導法	授業前半では、小学校学習指導要領で示されている理科の目標や育成を目指す資質・能力についての理解するとともに、理科の教材研究、教材の活用法および指導案作成の方法を身に付ける。後半は、実践的指導力の育成を図る目的により、各班、学生による学年ごとの模擬授業を行う。小学校教諭の経験を活かして、理科授業を構想する力と指導スキルの向上、学習指導案の作成力の向上を目指す。	
			図画工作指導法	小学校学習指導要領の理解をもとに、図画工作科の学習指導案をグループで作成し、検討した指導案のもと模擬授業を行う。図画工作科の授業を行う際にどのような「導入」が必要なのか、また、授業準備をどのように行い指導、支援を行うのか。本科目では、指導者としての具体的な知見獲得のための素地を養い、受講者各自の教育実践力を養う。	
			生活科指導法	小学校教諭の経験を活かして、生活科指導に関わる基本的な内容について説明する。学習指導案を作成し、模擬授業に取り組み、生活科の指導力を培う。これらの学修を通して、生活科の授業を構想する力と指導スキルの向上、学習指導案の作成力の向上を目指す。	
			家庭科指導法	小学校家庭科の授業実践に必要な力をつけるために、学習指導要領の目標および学習内容、学習方法に関する基本的事項を理解するとともに学習指導案を構成し、グループワーク（他者評価・自己評価を含む）と模擬授業等を行う。	
			体育科指導法	小学校における体育科教育に関わる制度や運動領域、教育課程、指導案、評価等についての専門知識と実践力を身につける。前半は体育科教育に関する基本的な知識・考え方について講義形式で授業を進め、体育科の専門知識を身につける。また、後半では実際に指導案の作成・実践・省察を繰り返すことによって前半の基礎を固め、体育科における具体的な課題を把握する。	
			音楽科指導法	小学校教育における音楽科の基礎基本を学び、指導目標・内容・方法や評価について学ぶ。その上で、「表現」（歌唱・器楽・音楽づくり）、「鑑賞」及び「共通事項」における指導の意義、目標、内容、教材研究の方法等について考察・演習を行う。また、模擬授業を通して、音楽科の各領域における、授業計画の立案、学習指導案、教材の作成や活用、発問等、授業の実際における指導法を習得し、現場での実践力につなげていく。器楽の演習ではリコーダーや打楽器等、実際の楽器の演奏方法等も習得する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	コース科目	児童教育コース	器楽応用	小学校、幼稚園、保育園の現場で必要とされる音楽教材のピアノ演奏法、及び弾き歌いについて学ぶ。保育・教育現場で求められる音楽の応用力や表現力を身につけることを目的としている。授業内容は小学校・幼稚園・保育士の取得免許希望によって小学校歌唱教材や幼児唱歌を中心に課題表にもとづいてグループレッスンを進めていく。課題は、保育・教育現場で使用される楽曲が中心である。また、毎回小テストを行う（小テストでは、保育・教育現場を想定し、歌唱にあわせてピアノの弾き歌いを行う）。	
		児童英語概論	小学校外国語活動や外国語の基本的な理解および第二言語習得に関する基本事項について理解するとともに、外国語活動や外国語の授業実践について理解する。また、英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）を理解する。さらに、英語のinputを与えるものとしての役割と facilitator としての教員の役割、児童の学びを観察・評価する者としての教師の役割を理解し、小学校教員としての姿勢を理解する。		
		児童英語指導法	小学校外国語活動の基本理論を踏まえ、単元構成を理解して指導案を立て、模擬授業を行う。模擬授業の後は必ずクラス全体でその模擬授業について考える時間を持つ。模擬授業はグループで行い、各グループで担任役・ALT役を決めて実施する。小学校外国語活動において、指導者は、英語のinputを与える役割、児童の活動が活発に行われるようサポートする役割、児童の学びを観察し評価する役割等、様々な役割を果たすことが求められる。模擬授業を通して、それらの役割をしっかりと理解する。		
		道徳教育指導法（初等）	学校における道徳教育は学校の教育活動全体を通じて行われるものである。小学校においては、生きる上で基礎となる道徳的価値観の形成を育成する指導が大切である。したがって指導の前提となる教師と児童、児童相互の人間関係が深まる道徳教育の指導法について理解を深める。特に、道徳の時間の指導は、道徳教育の要であるため、道徳科の具体的な指導計画の作成や指導展開の方法及び、指導過程の工夫等について身に付ける。また、教科書及び、資料の役割による活用方法と選択方法について考察する。なお、教師の姿勢・態度や教師の働きかけを中心とした指導方法の開発について言及する。		
		総合的な学習の時間指導法	総合的な学習の時間を通じて、児童及び生徒が学び方やものの考え方を身に付けると共に、児童及び、生徒が自ら、問題の解決や探究活動に対し、主体的、創造的、協働的に取り組み、自己の生き方を自ら考えることができるよう、本授業を通じて、総合的な学習の時間の指導計画の作成及び、具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。		
		特別活動指導法（初等）	特別活動は、各教科等学校全般の教育活動全体と深く関わっている。学習指導要領を踏まえ、望ましい集団活動を通して、集団の一員としてよりよい「生活づくり」や「人間関係づくり」「自主的実践的な態度」「自己の生き方」等、これからの社会を担う児童の資質能力を培うことが要請されている。これらの内容を踏まえ、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の4つについて、実践事例を取り上げながら、主に学級活動の指導案を作成する。また、特別活動に関わる他の教員、地域や関係諸機関の連携について理解する。		
		生徒・進路指導（初等）	生徒指導は、教科指導と並ぶ重要な教育機能をもつものである。そのため小学校教師には、生徒指導についての専門的な理解と確かな能力が求められる。本講義では、最近の学校教育を取り巻く問題を取り上げ、今日求められている生徒指導の実践例の分析から生徒指導の機能と意義について考察することを通して、教育者としての実践的な判断力と行動力を育む。また、事例をもとに、小学校生活6年間通した生き方あり方を具体的な教師の関わり方や指導法などについて、グループ討議等も盛り込んで学ぶようにする。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目	児童教育コース 生徒・教育相談論（初等）	生徒指導は、教科指導と並ぶ重要な教育機能をもつ教育活動であり、生徒指導の意義や原理を理解する。本授業では、最近の学校教育を取り巻く問題を取り上げ、求められている生徒指導の問題が起きた時の対応能力だけでなく、未然に防ぐための積極的生徒指導能力を学ぶ。そのため、集団指導・個別指導の方法と原理を理解し、実践例の分析から生徒指導の機能と学級経営や教師の役割を学ぶ。 また、事例をもとに、小学校生活6年間を見通した生き方・在り方や具体的な教師の関わり方、指導法などについて、グループ討議なども盛り込んで進路指導の重要性を学ぶ。	
		幼児教育・保育コース 保育者論	本授業科目では、保育の歴史の変遷と先達の保育理論について理解し、本学の学是「自律処行」の教えと合わせて「保育者論」を学ぶ意義を学生同士主体的に探究していきながら、保育者とはどのような職業であるか、また理想とする保育者はどのような姿なのか学びを深める。ICTを活用した保育の事例検討を行い子どもの各年齢の発達段階を理解したり、アクティブ・ラーニングの学修法を用いて問題解決能力、コミュニケーション能力、協調性を身に付け、保育者としての質の向上を図る。	
	保育原理Ⅰ	保育者としての基本的な知識を学ぶために、保育の意義、理念、概念を理解することを目指す。さらに、今日の日本の保育を取り巻く社会的な役割とその責任を学ぶとともに、保育所保育指針に基づく保育について、ねらいや内容を含めて学習する。その際、乳児、3歳未満児、3歳以上児の保育を発達段階に沿って理解するとともに、子育て支援のあり方についても理解する。加えて、諸外国の保育の考え方や歴史の変遷についても、日本の保育の歴史と比較しながら、理解を深める。		
	保育原理Ⅱ	本授業科目では、将来の人間形成の基礎として極めて重要な時期である乳幼児の「命を守り、心を育てる」ということが、保育者としてどのような営みであるのか先達の保育・教育理念から学び、よりよい保育を考える力を育てることを目指す。「保育原論Ⅰ」の内容を理解したうえで「保育者としてのアイデンティティ」を確立するために必要な保育者の資質について概説する。さらにアクティブ・ラーニングの学修法を用いて学生同士で主体的に保育理論と保育実践の結びつきを追究できるようにする。		
	子どもの家庭福祉Ⅰ	児童に関する問題が日々注目されている現在、それらの問題に繋がる背景を理解するために児童福祉を歴史的な視点から整理する。また、実際の支援場面における法律・制度・機関とそれぞれの関係性と、支援の現場であるさまざまな施設や専門職について学ぶことを通して、児童福祉の全体像と関連性を理解することを目的とする。		
	子どもの家庭福祉Ⅱ	児童に関する問題が日々深刻化する現在を踏まえ、問題背景を理解するだけではなく、その解決策模索する。特に、問題意識を持つことはできたとしても、それらに向かう行動を起こす者はまれである。こうした他人事のように振舞うのではなく、自分自身の問題と捉えると共に、支援者としての具体的行動の設定と実行ができる能力を身に着けることを目的とする。		
	子ども保健学Ⅰ	子どもに関わる職種において、子どもの健康の保持・増進、健康状態の変化を察知することは重要な責務である。「子ども保健学Ⅰ」では、子どもの成長発達と、子どもの健康の保持・増進のための知識について様々な角度から学習する。また、胎生期を含めた、子どもに必要な医療・福祉・母子保健行政について学ぶ。		
	子ども保健学Ⅱ	「子ども保健学Ⅰ」で学習した、子どもの成長・発達を礎として、保育実践における保健活動の重要性を理解する。また、子どもに多くみられる健康問題について思考するとともに集団生活のなかでの対応や、健康観察、健康管理、健康教育の重要性について学ぶ。		
	社会的養護	近年、家庭における養育機能が低下しており、子どもたちの健全な発達を支えていくためには、社会全体で支援していくという考え方が重要である。本講義では、社会的養護の概要を踏まえながら、特に、家庭の事情により児童福祉施設に入所してきた子どもたちに対して行われる社会的な養護サービス、すなわち施設養護について、その歴史や制度、実際、課題などに関して学んでいくこととする。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	コース 科目	幼児 教育 ・ 保育 コース	社会福祉原論	福祉とは何か、人が人として生きていくうえで幸福で健康に生きる状態（ウェルビーイング）を考え、福祉の根幹といえる権利擁護について学ぶ。少子高齢化、心身の障がいに対して多様化する福祉のニーズとサービスの現状を理解し、セーフティネットとしての地域福祉のあり方を様々な事例をもとに、学生同士主体的に学修していく。さらに教育者、保育者の視点から子ども家庭福祉のあり方を学び、家庭支援について理解を深める。	
			乳幼児心理学	ヒトは、生涯をかけて発達していく。その過程の中でも乳幼児期の心の発達は特にダイナミックであり、この心の発達について考えることは「人間とは何か」「人間らしさと、心とは何か」といった根源的な問いについて考えることにつながるものである。本講義は、乳幼児を対象とした様々な発達研究を概観していくことで、子どもが世界をどのように捉えているのか、他者と関わる心がどのように発達していくのかについて理解を深めることを目的とする。	
			保育内容総論	本授業科目では、改定された保育所保育指針・幼稚園教育要領について理解し、5領域の関連性、総合活動としての「保育内容」や「保育方法」の全体的構造について学ぶ。学生同士で模擬授業に取り組み、保育現場に即した実践演習を行う中で、専門的な知識と技能を体得する。子どもを取り巻く環境や小学校との連携について、ICTの活用で事例検討を行い、子どもの各年齢の発達段階の理解とインクルーシブ保育について理解する。	
			造形演習	本授業科目では、「プレイフル・アート」、「デザイン思考」、「マージナル・アート」について学び、実際の表現活動を主体的に企画表現することによって、保育教育の場において実践することができる表現方法と、人を勇気づける「造形」の在り方を学ぶ。	
			保育計画総論	保育所保育指針および幼稚園教育要領の趣旨の理解を深め、教育を中心とした教育の営みの歴史、構造、内容や方法等について、基礎的基本的な理解を目指す。今日の重要な教育事象を切り口として、子ども教育の現状や課題について関心を持つこと、今日に至る教育の営みの歴史について基本的に理解すること、保育所保育指針および幼稚園教育要領など、教育の理念や制度、様々な思想に関する基礎的、基本的知識を習得すること、保育教育現場が今日の社会の変化のなかで果たすことのできる機能について考えることを目的とする。	
			子どもの家庭支援の心理学	家庭・家族は、人の生涯発達に多大な影響を及ぼす重要なものである。この授業は、家族・家庭の意義と機能を学び、子どもと親の双方の成長の過程を理解することを目的とする。併せて、現在の子育て家庭に関する現状と課題を概観し、それが子どもの心身の発達にどう関わるかを考えていく。	
			乳児保育演習	本授業科目では、「乳児保育論」で学んだ総論を踏まえて、乳児保育における最新の話題や課題、現場における取り組みや事例などを多く提示して、乳児保育についての実践演習をしながら、保育者としての技能を習得していく。様々な保育事例を通して乳児保育（保育所・認定こども園・乳児院・家庭的保育等）の違いを認識し、保育者としての倫理観を身に付けていく。	
			子どもの食と栄養	子どもの心身の健やかな発達には、小児各時期の毎日の食生活、栄養状態が大きく関わってくる。また、子どもの時から適切な食習慣を育むことが、生涯にわたる健康の保持管理に繋がる。栄養の基礎、小児各時期（授乳期、離乳期、幼児期、学童期）の心身の発達に伴い変化する食と栄養について、さまざまな形態を取り入れながら理解を深めるとともに、自分自身の食生活も見直し、考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	コース 科目	幼児 教育 ・ 保育 コース	保育内容指導法（健康）	本授業科目では、保育士として必要な子どもの健康管理について、実践的な指導法を学ぶものである。具体的には環境について認識するとともに、子どもの健康保持・増進を図るうえで、必要な指導・援助に関する知識・技能を獲得ことをねらいとする。そのためには、子どもの健康、運動機能の発達、運動遊び、生活習慣の内容について調べていく。さらに、健康教育や体育科指導等で学んだ実践的な内容をもとに、教育学や心理学等の運動学、そして、新聞やテレビ等の情報を活用することで、子どもの「健康」を思考する。	
			保育内容指導法（人間関係）	人間関係の本質について問い直し、自身の人間関係を整理する。そのうえで、幼児が人と関わる力の成長に関する専門的な知識・技術について身に付けると共に、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境に関わる感性を養う。	
			保育内容指導法（環境）	保育内容（環境）に関する基本的な内容を体験を通して学ぶ。保育内容（環境）のねらい、内容、内容の取扱いについて学ぶ。さらに、幼児が環境との関わりを深めることができる活動等を工夫し、模擬保育を行う。これらを通して、幼児にとっての環境の持つ意味、発達における環境との関わり的重要性、幼児の環境認識、幼児にとっての環境に関する教材の意義、保育者の役割を検討、考察する。	
			保育内容指導法（言葉）	言葉が持つ機能や役割、乳幼児が養育者や家庭、保育教育施設の中の多様な人との関わりの中で言葉を習得する過程について学ぶ。それらを基に言葉の豊かな育ちに関わる保育者の役割と援助について理解する。演習を通して言葉の機能や役割について学び、子どもの言葉を豊かにする教材に触れ、演じるなどしながら、言葉の育ちに保育教育がどう関わるができるかを考える。	
			保育内容指導法（表現）	本授業科目は、子どもの表現と感性を豊かにするために必要な知識と技能、表現に関する能力を習得することを目的とし、領域「表現」のねらいと内容を学ぶ。表現におけるICTの活用法を理解した上で、表現活動による模擬保育に取り組み、領域「表現」に必要なとなる援助の在り方・指導法・環境構成の方法を学修する。 (オムニバス方式/全15回) (3 谷口 幹也・① 城 佳世/2回) (共同) 学習グループの構成、本授業の目的、統括 (3 谷口 幹也/7回) ICTの活用法、模擬保育、指導案 (① 城 佳世/6回) 音楽表現及び身体表現の保育活動の流れ、歌唱を中心とした模擬保育、ピアノ演奏を中心とした模擬保育、器楽を中心とした模擬保育、リトミックを中心とした模擬保育、リズム体操を中心とした模擬保育	オムニバス方式・ 共同（一部）
			子ども家庭支援論	本授業科目では、家族や家庭、地域社会、支援機関等の役割や機能を理解し、子どもが成長・発達していく上で何が必要かを幅広く深く理解する。さらに、日本における家族・家庭を含む社会の変遷の歴史を把握し、現実不安を抱えながら子育てしている保護者と子どもの問題に具体的な支援ができる教育者、保育者になることを目標とする。	
			障害児保育	本授業科目では、前半に、障害児教育の歴史と特別支援教育・インクルーシブ教育への展開について学ぶとともに、「障害とは何か」について、さまざまな教材を使って学生とともに考える。そのうえで、障害のある子どもの発達上の課題や障害特性を解説し、それぞれの障害を学生自身が体験的に理解できるよう、体験ワークや実践事例を用いて授業を展開する。後半は、保育者としての専門性を活かした保育実践、および地域資源と連携しながら子どもと保護者を支援していく方法について解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	コース科目	幼児教育・保育コース	リトミック	リトミックは、音楽教育を進めていく上で、人間の心理的、生理的な発達段階を考慮に入れて、エミール・ジャック＝ダルクローズ博士によって考案され、現在様々な幼稚園、保育園で取り入れられている教育方法である。学生が実際にリトミックを体験することを通して理解を深め、保育現場で実践できる指導法について学ぶ。子供の集中力、反応力、反射性などの諸感覚的能力を伸ばし、創造力を高め、理想的な人間へ成長する根源的要因を育てる人間教育についても学習する。	
			社会的養護演習	本授業科目では、社会的養護に関する基礎的な知見を踏まえて、児童の養護、すなわち施設養護についての理解を深めるとともに、具体的な事例や場面をできるだけ設定し、援助者としてのあり方や援助技術を演習形式を通じて学んでいくこととする。	
			保育実習指導Ⅰ	本授業科目には、保育所実習Ⅰの事前事後指導を含む。保育士資格取得のための保育所の意義について理解し、現場での実習に必要な基礎的知識を確かなものにするを目指す。具体的には実習先との連絡や実習の進め方、実習時の子どもとのかかわり、子ども理解や記録、計画について学び、保育士として求められる専門性についての理解を深めることを目的とする。	共同
			保育実習指導Ⅱ	保育所実習Ⅰの実習を終えて、その振り返りをもとに、自己の新たな課題を発見し保育所実習Ⅱへ活かす。責任実習実施へ向けて、保育実践指導を行い、保育現場で必要な知識・技術のさらなる向上を目指す。	共同
			施設実習指導Ⅰ	施設実習指導Ⅰは保育士資格取得のための児童福祉施設の意義について理解し、現場での実習に必要な基礎的知識を確かなものにするを目指す。具体的には実習先との連絡や実習の進め方、実習時の子どもとのかかわり、子ども理解や記録、計画について学び、保育士として求められる専門性についての理解を深めることを目的とする。	共同
			施設実習指導Ⅱ	施設実習Ⅰの実習を終えて、その振り返りをもとに、自己の新たな課題を発見し、施設実習Ⅱへ活かす。責任実習実施へ向けて、施設実践指導を行い、施設現場で必要な知識・技術のさらなる向上を目指す。	共同
			保育実習Ⅰ	事前指導を終了した学生に対し、保育所において保育士資格取得に必要な実践指導を行うものである。実施時期は2月を原則としている。本授業科目では、観察及び責任実習（部分実習）を中心として、保育所での生活、子どもの発達、保育士の役割など、保育所保育の基礎について実践的に学ぶことを目的とする。なお、所属学科の担当教員が実習園と打ち合わせをして巡回し指導を行う。	共同
			保育実習Ⅱ	事前指導を終了した学生に対し、保育所において保育士資格に必要な実践指導を行うものである。実施時期は2月を原則としている。本授業科目では、主に責任実習（部分実習）を中心として、より積極的に保育活動に参加し、保育士として実践力を身につけることを目的とする。なお、所属学科の担当教員が実習園と打ち合わせをして巡回し指導を行う。	共同
			施設実習Ⅰ	事前指導を終了した学生に対し、社会福祉施設において保育士資格に必要な実践指導を受ける。本授業科目では、主に生活支援を中心として、より積極的に施設利用児・者と関わることで保育士として実践力を身につけることを目的とする。なお、所属学科の担当教員が実習施設と打ち合わせをして巡回し指導を行う。	共同
			施設実習Ⅱ	事前指導を終了した学生に対し、社会福祉施設において保育士資格に必要な実践指導を受ける。本授業科目では、主に生活支援を中心として、より専門的支援に特化して施設利用児・者と関わることで保育士として実践力を身につけることを目的とする。なお、所属学科の担当教員が実習施設と打ち合わせをして巡回し指導を行う。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目 幼児教育・保育コース	幼児理解・相談論	少子化や虐待等の現代社会の抱える問題、発達障害児への支援の必要性を背景として、近年、保育や教育の現場における保育士や幼稚園教諭の相談活動が重視されている。本授業科目ではこのような状況を踏まえ、乳幼児とその家族を支援するために必要な幼児理解の理論及び方法に加え、教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論方法の学習を行う。事例を通して、家族と子どもとの関係の重要性を学び、保育士や幼稚園教諭の子育て支援についての理解を深める。	
		子育て支援演習	本授業科目では保育士の持つ専門性を踏まえ、子育て支援についての理念や、保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園における実際や、制度について学ぶ。さらに、保育者として必要な保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示など支援の知識、技術を理解し、保育士として求められる資質について学ぶ。 また、保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象への支援内容とその方法及び技術を、実践事例を通して具体的に学ぶ。	
		保育実践演習	現代の保育にかかわる様々な領域の課題について、分析・検討を行うとともに、その課題に関係して、子どもや保護者を援助するための知識・技術・方法などについて学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (8 青山 優子/8回) オリエンテーション、保育実習の振り返り、乳児期の発達段階の理解と保育実践、子どもの入園に必要な保健情報の収集と分析、保育所での事故とその処理 (11 大谷 誠英/7回) 虐待問題へ対応するための実践力、障がい児やグレーゾーンの子どもの発達支援、家庭支援のための相談援助演習、親子あそびの実践演習、保育実践力を高める、自己の成長や今後の課題、総括	オムニバス方式
		子どもの理解と援助	保育実践において、子ども一人ひとりの心身の発達を把握し、援助することは極めて重要なことである。この授業では、保育場面における子ども理解の基本的な考え方や方法を学ぶとともに、保育士が子どもを援助するときの基本的な姿勢を身に付けることを目的とする。	
		乳児保育論	本授業科目では保育所の実情を踏まえ、乳児保育についての理念や、児童福祉施設や認定こども園、小規模保育、家庭的保育等における実際、保育制度について学ぶ。さらに、成長、発達段階にそつた特徴と保育のあり方を学び、保育者として必要な知識と技術について学習し、保育士としての求められる資質について学ぶ。また、育児中の親の心理に対する理解を深め、家庭との連携について学ぶ。	
		子どもの健康と安全	保育現場において必要な保育・養護の知識と技術および応用能力を習得し、実践の場で適切に実施できるようにする。また子どもの健康と安全の観点から安全教育・安全管理の実施体制を学ぶことで実践的な知識・技術・態度を身につける。さらに技術演習を通して個別援助に必要な不可欠な対人間関係能力を養う。	
		幼児と健康	幼児とかかわる保育・学校現場において必要な知識と技術および応用能力を習得するとともに、実践の場で適切に実施できるようにする。また、子どもの健康保持・増進という視点から安全教育・安全管理の実施体制を学ぶことで実践的な知識・技術・態度を身につける。	
		幼児と人間関係	乳幼児期に育つ人と関わる力の発達について専門的事項を理解することを目的とする。そのため、乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代の特徴とその社会的背景を理解し、人と関わる力の育ちがその後続く一人一人の人生を支える力となることを理解する。 さらに、乳幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人、教師、幼児、地域との関わりについて理解するとともに、自立心・協働性の育ち、道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿と合わせて理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目	幼児と環境	<p>幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関わりについて専門的事項を理解することを目的とする。そのため、幼児を取り巻く環境の諸側面（物的環境、人的環境、自然・社会的環境、安全等）と、幼児の発達におけるそれらの重要性について理解するとともに、幼児を取り巻く環境の現代的課題についても理解する。さらに、乳幼児の物理的、数量・図形および生物・自然との関わり的事象に対する興味や関心や発達を理解する。また、幼児の身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達や標識・文字等、情報・施設との関わりでの発達について理解する。</p>	
		幼児と言葉	<p>人間にとって言葉は、他者とのコミュニケーション手段、あるいは思考の媒介として用いている。また、世界を理解する媒介としても、言葉は大切な意味をもっている。このようなツールとしての言葉を乳幼児期から豊かにしていくことは、豊かな生活を行う上で、重要な位置づけとなる。</p> <p>本授業では、話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能、乳幼児の言葉の発達過程について理解することを目的とする。さらに、絵本、物語、紙芝居等の児童文化財について、基礎的な知識を修得し、児童文化財の意義等について理解する。</p>	
		幼児と表現	<p>幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な遊び・表現の多様性を学ぶ。表現領域におけるICTの活用法を学び、保育に必要となる表現の基礎知識・技能を造形表現、音楽表現、身体表現を通じて学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 谷口 幹也・① 城 佳世/2回) (共同) 学習グループの構成、本授業の目的、進め方、統括</p> <p>(3 谷口 幹也/6回) 幼児教育における「主体的な遊びは重要な学習」、遊びの多義的な意味合いと表現とのつながり、子どもの遊び、造形表現を活発にする環境構成、子どもの遊び、造形表現の受け止め、幼児における表現、乳児期の終わりまでに育ててほしい幼児の具体的な姿</p> <p>(① 城 佳世/7回) 表現領域における音楽表現の位置づけ、音楽表現の種類及び音楽表現の意義、伴奏についての基本的な考え方、幼児教育における意義を理解する、うたにあわせて、ピアノ伴奏やICTを活用し伴奏を行う、器楽合奏についての基本的な考え方、幼児教育における意義を理解する、鍵盤ハーモニカ、打楽器などの基礎的な伴奏を学ぶ、器楽合奏、指揮法、身体表現の種類、身体表現の意義リトミックについての基本的な考え方、幼児教育における意義を理科するリトミックの基礎的な身体の動かし方、幼児教育における意義を理解する</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	ゼミナール科目	ゼミナールⅠ	<p>ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。ゼミナールⅠでは、情報収集の実践に重点を置き、担当教員が設定したテーマについて情報を各自で収集する。収集した情報は、各自で精査・整理・分析を行い、その結果をまとめて発表する。</p>	
		ゼミナールⅡ	<p>ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。ゼミナールⅡでは、多面的な情報収集の手法の習得、および、要約・分析の実践に重点を置き、担当教員が設定したテーマについて複数の手法で情報を収集する。収集した情報は、要約・分析を行った後、考察をまとめて発表する。</p>	
		ゼミナールⅢ	<p>ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。ゼミナールⅢでは、グループで情報収集、要約・分析、発表を行うことに重点を置く。担当教員が設定したテーマについて分担して情報収集し、グループディスカッションを行うなどして、グループとしての分析結果をまとめる。まとめた分析結果をグループごとに発表する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	ゼミナールⅣ	ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。ゼミナールⅣでは、ゼミナールⅢに引き続き、グループで情報収集、要約・分析、発表を行うことに重点を置く。グループディスカッションを通して、テーマ設定、情報の集約、分析、考察を行う。分析結果はパワーポイントにまとめてグループごとに発表する。	
	キャリア発展ゼミナール	ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。キャリア発展ゼミナールでは、ゼミナールⅠ～Ⅳで習得したことを基に、興味・関心のある分野に関する卒業研究を行う。研究の成果は、研究レポート（卒業論文）としてまとめ、発表を行う。	
自由選択科目	図書館概論	図書館の学習全般にわたり最も基本的な知識、原理を学ぶ。特に社会における図書館の意義、役割や機能について理解する。また、図書館の歴史や現状を把握し、今後の図書館のあり方についても考える。さらに図書館経営や組織などの見識も深め、図書館関係団体など図書館を取り巻く環境についても学び、ネットワーク時代の図書館の将来展望について応用できる知識形成の基を築く授業とする。	
	生涯学習概論	図書館は生涯学習施設であり、司書は人々の生涯学習を支援する仕事であるとも言えることから、生涯学習についての基本的な理解を図る授業である。生きることはさまざまな課題を解決していく過程であり、課題解決の一つの方法が学習である。よりよく生きるためには生涯にわたる学習が重要であるという生涯学習の理念および時代背景を確認した上で、生涯学習社会形成のために必要な視点を説明する。具体的には、社会教育と学校教育および家庭教育の各役割と関係、人生各期の学習、学習支援の方法、学習施設の役割等について講義する。	
	情報資源組織論	資料組織の意義・目的と方法について理解を深め、図書館資料の組織化について基礎的な知識を身に付ける。 (1)資料組織化の歴史と現状を理解する。 (2)組織化のツールとしての日本目録規則（NCR）と日本十進分類法（NDC）の意義を理解する。 (3)資料組織化に関する基礎的な用語を理解する。 図書館業務経験をもとに、（1）～（3）の知識をどのように活用するかを説明する。	
	情報資源組織演習Ⅰ	本授業科目では、図書館における情報資源組織化を理解するための演習を行う。そのため、基礎知識となる「情報資源組織論」の単位取得および取得中の者に限る。授業では、利用者が図書館の所蔵する資料を分野から検索できる主題目録（①分類目録、②件名目録）を作成する。①分類目録：情報資源を配列するための分類法（『日本十進分類法（NDC）』新訂9版 本表編、相関索引・一般補助表編）の知識を身に付ける。②件名目録：情報資源を主題形式の言葉順に配列するための件名標目表（『基本件名標目表：BSH』第4版）の知識を身に付ける。	
	情報資源組織演習Ⅱ	本授業科目では、図書館における情報資源組織化を理解するための演習を行う。そのため基礎知識となる「情報資源組織論」の単位取得及び取得中の者に限る。授業では、情報資源の組織化を行うために『日本目録規則（NCR）』1987年版改訂3版を使い、カード目録やコンピュータ目録を作成し、「資料組織法」、「目録記入」など目録作成についての基本を学ぶ。また目録作成にあたり、図書館司書としての現場体験をもとに紙媒体の情報資源だけではなく、多種多様な情報資源を対象に利用者への提供の意義を学ぶ。	
	情報サービス論	現代社会における情報ニーズに対応し、将来の発展を見据える能力を養成する。また、情報サービスに関する現象や事実に通じる原理を理解する。本授業は理論的な知識だけではなく、「情報サービス演習」につなげる実践（実務）的な技術についても理解を深め、専門職としての技能（キャリア）形成を行う。また、授業内においてグループディスカッションを取り入れ、他者からの情報収集・分析・発信ができるような形式を取り込み基礎力の養成を行う。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由 選択 科目	図書館司書課程科目 情報サービス演習Ⅰ	本授業科目は、「情報サービス論」で学習した基礎知識を元に応用能力を養成する。そのため受講希望者は、「情報サービス論」の単位取得および取得中の者に限る。授業概要は、情報資源をいかに利用者へ提供するかを考えると同時に情報ツールを把握する。また、情報ツールを使うことにより、利用者のニーズにあった情報を提供するとともにサービスに必須のコミュニケーション能力を演習を通して養成する。なお、学生の習得状況を確認するために双方向性のあるLMSのツールを使い展開する。また、授業に関連する外部のオープンコースウェアを活用する。	
	情報サービス演習Ⅱ	本授業科目は、「情報サービス論」で学習した基礎知識を元に応用能力を養成する。そのため受講希望者は、「情報サービス論」「情報サービス演習Ⅰ」の単位取得および取得中の者に限る。授業では、「情報サービス演習Ⅰ」の演習で身に付けた知識とスキルを活用させ、スキルアップできる演習を行う。また、「情報サービス演習Ⅱ」では、図書館外の企業等でも用いられる情報分析（フレームワーク）を行い、情報収集・発信・提供・維持管理などの知識とスキルを身につける。図書館司書としての現場経験から、情報分析の応用力の必要性を伝える。なお、授業での学生の習得状況を確認するために双方向性のあるLMSのツールを使い展開する。また、授業に関連する外部のオープンコースウェアを活用する。	
	児童サービス論	児童サービス推進には、子どもを知り、子どもの本を知り両者を結ぶ技術を知ることが必要である。学生は子ども時代の読書の大切さを体得することが不可欠だ。そのために読み聞かせを通して読書の大切さを実感してもらう。また、公共図書館で45年間勤務した講師の経験を活かし、図書館で子どもへの教え方を伝えるレファレンス実践を行う。子どもと本をつなぐ力を養うことによって学生は、生涯を通して子どもと本が拓いてくれる豊かな人になる基礎を培い未来を生きていくことができる。	
	図書館情報技術論	情報化社会となっている今日の図書館における業務やサービスは、コンピュータをはじめとしたさまざまな情報技術と密接な関係をもっている。これからの図書館司書には、情報技術に対する知識や技術の向上が求められるようになる。本講義では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するために、コンピュータとネットワークの基礎、図書館業務システム、データベース、電子資料などについて理解する。	
	図書館情報資源概論	図書館における情報資源とはどのようなものか、資料形態（情報）ごとに定義、歴史、意義、特質の基本知識を習得する。そのうえで情報資源に関連する出版流通や著作権、図書館の自由などの現状と動向についての知識を深める。また、図書館情報資源の構築は図書館運営に関わるため、本授業を通して実際の情報資源をみて、情報資源を判断できる実践的見識と能力を養成する。	
	図書館サービス概論	図書館にはさまざまなサービスがある。「図書館と利用者」、「図書館職員と利用者」、「図書館と図書館」、「図書館と行政等」、その一つ一つのサービスのあり方や機能を学ぶことにより、図書館サービスの社会的役割を理解する。また、地域のコミュニティとしての文化的・教育的役割についても理解し、職業人（司書）としての意識を高める。	
	図書館制度・経営論	図書館に関する法律（図書館法、社会教育法など）、関連する領域の諸法令、図書館政策について理解を深める。さらに図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等とともに図書館施設運営について学ぶ。	
	図書館サービス特論・図書館情報資源特論	本授業科目では、図書館サービスにおける利用者と図書館間のコミュニケーションの学びを活用する。次に、近年図書館が取り組んでいる課題解決サービスについて学んだ内容を応用して図書館サービスの在り方を考える。さらに、各分野の情報資源の概念や特性などを踏まえた上で、文献や情報の特徴や種類を活用する方法を理解する。また、昨今の図書館に求められる多様なニーズについて、図書館現場経験を基に最新の情報を使い説明する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
自由選択科目	図書館司書課程科目	図書及び図書館史・図書館基礎特論	<p>図書と図書館に関わる諸現象を各時代の社会体制や文化の発達過程の中で考察し、現在に至った図書館の歴史を理解する。その上で学生は、これからの図書館や司書のあるべき姿を考え、課題を見つけ解決策を考察する。学生は図書館について4年間学んだことを横断的に振り返り、人の役に立つ司書になれるような考え方とスキルを身につける。そのために教員は45年間の図書館での実務経験を活かして学生が将来にわたって図書館を活用できるように指導する。また、学生が書いて話せる人になるように本の紹介を原稿を見ずに語る指導を行う。これらを通してコロナ禍やデジタル化など急速な社会の変化に臨機応変に対応できる考え方とスキルを身につけ生きる力を高めていく。図書館基礎特論は、図書・図書館史の授業の中で『図書館情報学基礎資料』を使い関係法令・用語解説などを確認しながら進めていく。</p>	
	学校図書館司書教諭課程科目	学校経営と学校図書館	<p>学校教育の動向を踏まえ、学校図書館の理念・目的・役割・活動内容等の理論と実践について学ぶ。 学校図書館の現状と課題について、担当者としての司書教諭の実務経験を聞き、司書教諭に求められる役割について理解する。 本授業科目は、司書教諭科目全体の総論的内容となっている。</p>	
		学校図書館メディアの構成	<p>学校図書館で扱うメディアは、情報社会の進展とともに、図書や雑誌などの伝統的メディアから電子メディアまで多岐に渡る。学校現場ではメディアを校内活動に積極的に取り入れ、子どもたちがメディアを利活用することが望まれている。本科目では、学校図書館の役割を認識し、学校図書館で揃えるべきメディアの種類や特性、その組織化について学ぶ。</p>	
		情報メディアの活用	<p>現代社会が情報の高度化するにつれて、多種多様なメディアが出現している中、司書教諭と生徒双方に求められるのは情報活用能力である。特に、学校図書館の指導に携わる司書教諭は、授業内容に関連した資料や情報を利用するための知識と方法を身につけておく必要がある。本授業科目では、多様な情報メディアの特性や利活用法について学ぶ。</p>	
		学習指導と学校図書館	<p>変化の激しい現代社会において情報活用能力を身に付けることが求められている。 学校図書館は、学習センター・情報センターとしての機能を有し、教科・領域等と連携協働して、学習活動を支える役割を持っている。 学習指導における学校図書館担当者としての活用事例を聞き、司書教諭の役割について理解する。 図書館を実際に活用し探究型学習を行うことで、児童・生徒の情報活用能力の育成方法について学ぶ。</p>	
		読書と豊かな人間性	<p>生涯学習社会と言われる今日において、子どもの生涯にわたる読書習慣を形成するためには、系統的、計画的な読書教育が必要である。 司書教諭の実務経験を活かして、子どもの読書実態を踏まえた読書指導について、司書教諭の役割を説明する。 子どもと本を結びつけ読書習慣を形成するための様々な方法について、演習しながら学ぶ。</p>	
	K I C I P 科目	公務員試験概論	<p>公務員採用試験対策の準備段階として、公務員の職種紹介を行い、志望職種を選択するために必要な情報提供を行う。また、試験制度や受験科目の説明を行い、今後の学習の指針を示す。さらに、数的処理といった公務員試験特有の科目紹介、身の回りのニュースなどを題材にした社会科学分野の学習などを通じて、今後の学習の準備を行う。この講義を通じて、公務員試験について理解し、今後の学習計画が立案できることを目指す。</p>	
		数的処理 I	<p>公務員採用試験での判断推理、数的推理、資料解釈といった科目や、民間企業採用試験で実施されるSPI3試験の非言語分野の問題では必要となる数的処理能力の向上を目指し講義を行う。この講義では特に基礎的な内容を重視し、多くの問題に触れながら解法のポイントを紹介し、課題を論理的に解決する方法を学ぶ。また、問題解決で必要になる数学に関する知識に関しても中学校、高等学校の復習を行い、基礎的な数学力を身に付ける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由 選択 科目	K I C I P 科目	社会科学Ⅰ	公務員採用試験で出題される社会科学の内容について学習する。この講義では社会科学の中でも特に経済分野の学習を中心に行い、高等学校で学習する政治経済分野の内容だけでなく、専門科目のミクロ経済学や経済史、金融政策などの基礎的な内容まで学習する。この講義を受講することによって、公務員採用試験での社会科学分野での得点力向上や知識習得だけでなく、専門科目の学習をスムーズに始めることができる。
	文章理解	公務員採用試験での「文章理解」や民間企業採用試験で実施されるSPI3試験などで課せられる長文読解を中心に講義を行う。文章読解能力は採用試験で必要となるだけでなく、日常的なコミュニケーションやあらゆる科目の学習の基礎となる能力であり、社会で活躍する人材になるうえで必要不可欠な能力である。この講義ではより多くの文章に触れながら自ら文章を読み、自ら考えることを重視し、読解能力の向上を目指す。	
	数的処理Ⅱ	公務員採用試験での「判断推理」「数的推理」と言った科目や、民間企業採用試験でのSPI3試験の「非言語分野」などで必要となる数的処理能力の向上を目指し講義を行う。この講義では数的処理Ⅰで学習した内容をもとに、さらに多くの問題に触れながら応用問題、発展問題の解法について学習を行う。また、数的処理Ⅰでは学習しなかったパターンの問題の解法などについても学習し、数的処理能力を向上させ、より多くの課題を解決できる力を身につける。	
	数的処理Ⅲ	公務員採用試験での判断推理、数的推理などの科目で必要となる数的処理能力の向上を目指し講義を行う。この講義では数的処理Ⅰ、数的処理Ⅱで学習した内容を基に、実際の公務員採用試験の問題にも触れながら問題の解法について学習を行う。また、数的処理Ⅰ、数的処理Ⅱでは学習しなかったパターンの問題の解法などについても学習し、採用試験に向けてより実戦的な力を身に付け得点力の向上、課題解決能力の向上を目指す。	
	社会科学Ⅱ	公務員採用試験で出題される社会科学の内容について学習する。この講義では社会科学分野の中でも特に政治・法律分野の学習を中心に行い、高等学校で学習する政治経済分野の内容だけでなく、専門科目の憲法や政治学などの基礎的な内容まで学習する。この講義を受講することによって、公務員採用試験での社会科学分野での得点力向上や知識習得だけでなく、憲法などの専門科目の学習をスムーズに始めることができる。	
	人文科学	公務員採用試験で出題される人文科学の内容について、中学校、高等学校での学習内容の復習を中心に講義を行う。この講義で学習する内容は、民間企業、公務員を問わず、就職試験で一般常識として問われる内容でもあり、社会人として必要な知識を習得する。各科目ごとの講義回数は少ないため、特に採用試験で頻出のテーマや一般常識として身に付けておきたいテーマを中心に講義を行い、今後の学習に繋げることを目的とする。	
	自然科学	公務員採用試験で出題される自然科学の内容について、中学校、高等学校での学習内容の復習を中心に講義を行う。この講義で学習する内容は、民間企業、公務員を問わず、就職試験で一般常識として問われる内容でもあり、社会人として必要な知識を習得する。各科目ごとの講義回数は少ないため、特に採用試験で頻出のテーマや一般常識として身に付けておきたいテーマを中心に講義を行い、今後の学習に繋げることを目的とする。	
	憲法演習	公務員採用試験で出題される憲法について学習する。憲法は全ての法律の拠り所となる存在で、数多くの法律の中でも重要な役割を担っている。総論、人権、統治機構が主な内容であり、この講義では、これらの内容について条文の理解や重要な判例の学習を行う。また、各論点について公務員採用試験で出題される実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
自由選択科目	K I C I P 科目	行政法演習	公務員採用試験の専門試験において出題される行政法について講義を行う。行政法や他の民法や商法のように単独の法典は存在せず、行政に関連する法律の総称であるため、全体像が見えにくく学習を進めにくい科目であるが、公務員として働く上で行政に関する法律の知識は必須である。この講義では、地方自治法や行政手続法、国家賠償法などの行政法について、特に公務員採用試験で重要になる条文の理解や重要な判例の学習を行う。また、この講義では各論点について公務員採用試験で出題される実際の問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
		民法（総則、物権）演習	公務員採用試験で出題される民法について学習する。民法は身近な法律ではあるが、条文の数や論点が多く、学習する内容は膨大である。この講義では、民法の中でも総則、物権の内容について、特に公務員試験で重要になる条文の理解や重要な判例の学習を行う。また、各論点について公務員採用試験で出題される実際の問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
		民法（債権、親族・相続）演習	公務員採用試験の専門試験において出題される民法について講義を行う。民法は身近なことに係る法律ではあるが、条文の数や論点が多く、学習する内容は膨大である。この講義では、民法の中でも「債権」「親族・相続」の内容について、特に公務員試験で重要になる条文の理解や重要な判例の学習を行う。また、この講義では各論点について公務員採用試験で出題される実際の問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
		ミクロ経済学演習	公務員採用試験の専門試験において出題される経済原論のうち、ミクロ経済学の分野について講義を行う。経済学の中でもミクロ経済学は特に消費者や企業の行動に着目し価格の決め方などについて学習する。また、科目の性質上、微分などの数学的な必要となるが、初学者でも理解できるように講義を進めていく。この講義では、特に公務員採用試験で重要になる論点の学習を行うが、同時に実際に出題される試験問題にも触れることで、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
		マクロ経済学演習	公務員採用試験の専門試験において出題される経済原論のうち、マクロ経済学の分野について講義を行う。経済学の中でもマクロ経済学は国家や市場といった大きな視点から経済のメカニズムについて学習する。また、科目の性質上、微分などの数学的な必要となる理解できるように講義を進めていく。この講義では、特に公務員採用試験で重要になる論点の学習を行うが、同時に実際に出題される試験問題にも触れることで、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
		法律科目演習 I	公務員採用試験で出題される法律科目について、憲法、民法、行政法の重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容についても学習を行う。また、刑法や労働法といった、その他の法律科目の内容についても、条文やの理解や重要な判例の学習を行う。特に刑法については理論やその学説、労働法については労働基準法など社会人として知っておきたい知識などについて学習を行う。	
		法律科目演習 II	法律科目演習 I に引き続き、公務員採用試験で出題される法律科目（憲法、行政法、民法、刑法、労働法など）に関して重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		経済科目演習 I	公務員採用試験で出題される経済科目について、ミクロ経済学、マクロ経済学の重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容についても学習を行う。また、この講義では財政学や経済事情といった、その他の経済科目の内容についても講義を行う。財政学では財政理論や財政制度などについて、経済事情については国や地方自治体の一般会計などのデータについて学習を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
自由選択科目	K I C I P 科目	経済科目演習Ⅱ	経済科目演習Ⅰに引き続き、公務員採用試験で出題される経済科目（ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学、経済事情など）に関して重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		行政科目演習Ⅰ	公務員採用試験で出題される行政科目について、政治学、行政学、国際関係などの多岐にわたる科目の学習を行う。政治学では政治制度や政治思想、行政学では官僚制度や行政理論、国際関係では国際情勢や外交史などについて学習し、いずれも行政職として働くうえで基礎となる知識になる。これらの科目の学習を通じて、単に採用試験に合格するための知識としてだけでなく、行政職として活躍できる人材育成の土台作りを行う。	
		行政科目演習Ⅱ	行政科目演習Ⅰに引き続き、公務員採用試験で出題される行政科目（政治学、行政学、国際関係、社会科学、社会事情など）に関して重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		会計学演習	公務員採用試験で出題される会計学について学習を行う。公務員採用試験において会計学は国税専門官の採用試験で出題される科目で、その出題数も多い。簿記に関する内容を多く含むので、受講前に日本商工会議所主催の簿記検定2級まで学習を終えていると内容を理解しやすい。この講義では公務員試験で出題される実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
		専門科目記述式演習	国税専門官、裁判所職員などの採用試験で実施される記述試験の対策を行う。国税専門官では憲法、民法、経済学、会計学、社会学の5科目から選択、裁判所事務官では憲法が出題されるが、この講義では法律と経済学の対策を主に行う。自由記述式の試験であり、より深い知識が必要となるため、ある程度学習が進んでいる学生を対象とする。過去の出題例を基に重要論点について自分の言葉で論述できるように、実践的な演習を行う。	共同
		公務員試験直前対策Ⅰ（教養）	公務員採用試験で出題される教養科目の知能分野（文章理解、数的処理）、知識分野（社会科学、人文科学、自然科学）の問題演習を行う。この講義では基本事項、重要事項の確認を行いながら、より発展的な問題も出題し応用力、実戦力を育成する。また、模擬試験形式で問題演習を行い、速く正確に問題を解くことを講義内で訓練し得点力の向上を目指す。さらに試験情報の提供や、今後の学習の進め方など受験に向けたアドバイスも行う。	
		文章理解演習	既に学習した文章理解の講義に引き続き、公務員採用試験で出題される現代文や英文の内容把握を中心とした長文読解の学習を行う。講義内で重要論点の復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容についても取り扱う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		人文科学演習	既に学習した人文科学の講義に引き続き、公務員採用試験で出題される日本史、世界史、地理、文学・芸術などの人文科学分野に関する重要論点の復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
	公務員試験直前対策Ⅱ（教養）	公務員試験直前対策Ⅰ（教養）に引き続き、公務員採用試験で出題される教養科目に関して模擬試験形式で問題演習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。また、試験情報の提供などの受験のアドバイスを行い、併せてエントリーシート作成などの人物試験対策の準備も進める。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由 選択 科目	K I C I P 科 目	社会科学演習	既に学習した社会科学Ⅰ、社会科学Ⅱの講義に引き続き、公務員採用試験で出題される法律、政治、経済などの社会科学分野に関する重要論点の復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		自然科学演習	既に学習した自然科学の講義に引き続き、公務員採用試験で出題される数学、物理、化学、生物、地学などの自然科学分野に関する重要論点の復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		公務員試験直前対策Ⅰ (SPI)	一部の公務員採用試験で導入されているSPI3やSCOAなどの従来の公務員採用試験とは異なる試験形式の対策を行う。これらの試験は従来の公務員採用試験よりは難易度が低い、時事問題なども含まれるため、幅広い知識が必要となる。また、出題数が多いことから平易な問題を素早く解く訓練も必要となるため、それらを意識した講義を行う。さらに試験情報の提供や、今後の学習の進め方など受験に向けたアドバイスも行う。	
		公務員試験直前対策Ⅱ (SPI)	公務員試験直前対策Ⅰ (SPI) に引き続き、公務員採用試験で導入されているSPI3やSCOAなどの試験形式の対策を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。また、試験情報の提供などの受験のアドバイスを行い、併せてエントリーシート作成などの人物試験対策の準備も進める。	
		公務員試験直前対策Ⅲ (教養)	既に学習した公務員試験直前対策Ⅰ・Ⅱ (教養) に引き続き、模擬試験を中心とした講義を行う。その中で時間配分や問題の取捨選択など、筆記試験合格に向けて、より実践的な練習を行う。また、知識を総整理するために解説講義も行い、重要事項や間違いやすい論点を再確認し、間違った問題の復習にも力を入れる。さらに、試験情報の提供など受験のアドバイスを行い、併せてエントリーシート作成などの人物試験対策の準備も進める。	
		公務員試験直前対策Ⅲ (SPI)	既に学習した公務員試験直前対策Ⅰ・Ⅱ (SPI) に引き続き、問題演習を中心とした講義を行う。その中で早く正確に解くための訓練を行い、一次試験合格に向けて得点力を向上させる。また、知識を総整理するために解説講義も行い、重要事項や間違いやすい論点を再確認し、間違った問題の復習にも力を入れる。さらに、試験情報の提供など受験のアドバイスを行い、併せてエントリーシート作成などの人物試験対策の準備も進める。	
		公務員人物試験対策	公務員採用試験の人物試験対策を行う。この講義では特に、面接試験の準備を重視し、エントリーシートの作成や、個別面接、集団面接のロールプレイングを行い、面接試験に向けた対策を行う。また、論作文試験についても解説講義を行ったうえで論作文の添削を行う。さらに、一部の自治体では集団討論やグループワークが実施されるため、実際にグループに分かれて体験することで実戦力を身に付け、人物試験合格を目指す。	
留 学 生 特 別 科 目		初級日本語ⅠA	発音から学ぶ初級レベルの授業で、言語知識を勉強しながら会話を少しずつ身に付ける。日常生活に必要な文法知識と基礎会話を習得する。メインの教科書の他に生の会話や文化的なものを教材として活用する。	
		初級日本語ⅡA	文の構造と意味・機能の総合的理解を目標に、新しい文型を導入し、状況に応じて運用できるようになる練習をする。文法とともに会話を磨く。	
		初級日本語ⅠB	発音から学ぶ初級レベルの授業で、言語知識を勉強しながら会話を少しずつ身に付ける。日常生活に必要な文法知識と基礎会話を習得する。メインの教科書の他に、生の会話や文化的なものを教材として活用する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
留学生特別科目	初級日本語ⅡB	様々な日常生活の場面で自然な日本語を運用して、日本語能力試験N3レベルの語彙と文法項目を学習する。文法を駆使して、発音、文章を書く練習を行う。	
	初級日本語ⅠC	1. 課題遂行型(タスク型)の教科書を使って、(1)音声を聞く(2)話す活動をする(3)ふりかえる、のステップをくりかえすことで、CEFR-A1～A2レベルの日本語力を身に付けることを目指します。 2. 聴解音声を使って、ある程度まとまったテキスト(CEFR-A1～A2レベル)のインプットを理解することを目指します。 この授業は4名程度のグループでさまざまな活動を行います。	
	初級日本語ⅡC	初級レベルの文型や語句を習得し、場面に即した日本語表現を身につけることを目指します。既習の文型を、状況に応じて適切に運用できるよう、ペアワークやロールプレイを用いた会話練習を行います。	
	初級日本語ⅠD	本授業科目は発音からスタートする初心者向けの入門コースである。メイン教科書の内容に従って、「基礎発音、単語、文型」という流れに沿いながら基本文型の繰り返し練習と学生の発話訓練に重点を置く。日本語の基礎文法をしっかりと身に付け、日常生活に必要なコミュニケーション能力を育てる。	
	初級日本語ⅡD	初級用テキストで学んだ表現を使って出来事や状況を説明したり質問に答えたりする練習をする。パワーポイントを使って住んでいる町や家族を紹介する練習も行う。	
	初級日本語ⅠE	本授業科目は聴力をメインとする初級者向けの聴解訓練コースである。教科書『日本語聴力第三版学生用書入門編』(中国華東師範大学出版社)の内容に沿い、重要単語や基本文型を繰り返して聴く練習や要点説明を通して日本語を「聞く」力を育成する。また、授業の進度に合わせ、『みんなの日本語初級Ⅰ聴解タスク25』を利用して聴解練習も行い、文脈分析、既知知識を使った予測または推測能力を養成する。	
	初級日本語ⅡE	初級レベルの文型や語句を使った会話アナウンス、スピーチ等が正しく聞き取れることを目指す。	
	日本語講座Ⅰ	『日本語1級能力試験対策』および模擬試験問題集を教材とし、日本語の表現、文法、語彙の意味用法、読解力を養成する。また、言葉の勉強と同時に日本社会・文化に対する理解も深めていく。	
	日本語講座Ⅱ	前期(日本語講座Ⅰ)の準1級レベルの続きとして、後期は文字、語彙、文型、読解を中心に、『日本語1級能力試験対策』および日本語表現文型を教材とする。日本の社会、文化についての理解を深めさせるような講義内容を心掛ける。	
	日本事情Ⅰ	現代日本のアニメーション・マンガ作品等を教材の中心としながら、それらの作品にこめられている作者のメッセージやその魅力を読み取る。この授業は、担当教員からの解説だけではなく、授業で取り上げた作品について受講生の日本語による発表も毎回行う。	
	日本事情Ⅱ	現代の日本を知るために、現在日本でヒットしているアニメ作品、マンガ作品、映画、ドラマなどを材料としながら、俯瞰していく。それらの作品の魅力やメッセージを読み取ることがすなわち、現在の日本を知ることになると考えるからである。この授業はすべて日本語で行われる。	
	比較文化Ⅰ	まず、言語、文化、コミュニケーションについての基本概念を説明する。次に、中国の文化と日本の文化を例に比較する。比較の観点は、日本と中国で異なると思われるものを見つけ出して比較するだけではなく、共通性の観点からも比較の作業を行う。他国の文化および自国の文化を正しく理解できるように講義を進める。授業の進め方は、講義形式とゼミ形式を併用する。授業を通して、コミュニケーションおよびプレゼンテーションのスキルアップも図る。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
留学生特別科目	比較文化Ⅱ	<p>「比較文化Ⅰ」の発展。日中両文化・社会を<比較>して違いを探すのではなく共通性を考える。前期同様に本教科での比較は、双方の違いを同じヒト・人類の政治的社会的文化的な行動・価値観・規範のそれぞれ異なる顕れと見なして具体相を知り、そのことをとおして相互理解を深め世界に貢献する日中関係を築いてゆくことを目指す。</p>	

学校法人福原学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度

→ 令和5年度

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
九州女子大学								
家政学部								
人間生活学科	40	-	160					
栄養学科	90	-	360					
人間科学部								
人間発達学科								
人間発達学専攻	130	-	520					
人間基礎学専攻	60	40 ^{3年次}	320					
計	320	40	1,360					
九州女子短期大学								
子ども健康学科	150	-	300					
計	150	-	300					
九州共立大学								
経済学部								
経済・経営学科	350	-	1,400					
地域創造学科	80	-	320					
スポーツ学部								
スポーツ学科	250	-	1,000					
計	680	-	2,720					
九州共立大学大学院								
経済・経営学研究科								
経済・経営学専攻 (M)	5	-	10					
スポーツ学研究科								
スポーツ学専攻 (M)	5	-	10					
計	10	-	20					
九州女子大学								
家政学部								
生活デザイン学科	60	-	240					学科の設置 (届出)
栄養学科	90	-	360					
人間科学部								
児童・幼児教育学科	100	-	400					学科の設置 (認可申請)
心理・文化学科	90	-	360					学科の設置 (届出)
計	340	-	1,360					
九州女子短期大学								
子ども健康学科	150	-	300					
計	150	-	300					
九州共立大学								
経済学部								
経済・経営学科	350	-	1,400					
地域創造学科	80	-	320					
スポーツ学部								
スポーツ学科	250	-	1,000					
計	680	-	2,720					
九州共立大学大学院								
経済・経営学研究科								
経済・経営学専攻 (M)	5	-	10					
スポーツ学研究科								
スポーツ学専攻 (M)	5	-	10					
計	10	-	20					

※ 九州女子大学人間科学部人間発達学科は、
専攻ごとに教職課程が異なる。